IBM Campaign バージョン 9 リリース 1 2013 年 10 月 25 日

# インストール・ガイド



#### - お願い -

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、103ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Campaign バージョン 9、リリース 1、モディフィケーション 0 および新しい版で明記されていない限 り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

- 原典: IBM Campaign Version 9 Release 1 Installation Guide
- 発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 担当: トランスレーション・サービス・センター
- © Copyright IBM Corporation 1998, 2013.

# 目次

第1章 インストールの概要1
インストール・ロードマップ
インストーラーの動作 4
インストールのモード 5
Campaign と eMessage の統合 5
Campaign と IBM EMM 製品の統合 7
IBM Campaign の資料のロードマップ8
第 <b>2</b> 章 <b>Campaign</b> のインストールの計
画11
前提条件
Campaign のインストール・ワークシート 13
IBM EMM 製品のインストール順序 15
Campaign のフェイルオーバー構成の計画 17
第 3 章 Campaign のデータ・ソースの
準備
Campaign システム・テーブル用のデータベースまた
はスキーマの作成
ODBC 接続またはネイティブ接続の作成 22
JDBC ドライバーを使用するための Web アプリケー
ション・サーバーの構成
Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の
作成
JDBC 接続を作成するための情報
第 4 章 Campaign のインストール 27
GUI モードを使用した Campaign のインストール 28
インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成
する
コンソール・モードを使用した Campaign のインス
$\vdash -\mathcal{W} \dots \dots$
Campaign のサイレント・インストール 36
サンプル応答ファイル
第5章 配置前の Campaign の構成 39
手動での Campaign システム・テーブルの作成とデ
ータ設定
手動での eMessage システム・テーブルの作成と
データ設定 40
手動での Campaign の登録
手動での eMessage の登録 42
Campaign 始動スクリプトにおけるデータ・ソース変
数の設定 (UNIX のみ)
データベース環境変数およびライブラリー環境変

デー	・タ	べ-	ーフ	、環	境	変数	なお	よび	びラ	イ	ブ	ラリ	_	環切	竟変	ŝ	
数										•			•	•		• 4	43

第 6 章 Campaign Web アプリケーショ	
ンの配置	47
Web アプリケーションのセッション・タイムアウト	
の設定	47
WebSphere Application Server への Campaign の配置	47
WAR ファイルから WAS への Campaign の配置	47
EAR ファイルから WAS への Campaign の配置	49
WebLogic への Campaign の配置	50
レポートを表示するように WebLogic を構成する	
(UNIX)	51
Campaign サーバーの始動	52
Campaign サーバーの直接始動	52
Campaign サーバーを Windows サービスとしてイ	
ンストールする方法	53
第7音 配署後の Compaign の構成	55
	55
Campaign リスナーが稼働中でのるかとうかの検査	55
Campaign システム・ユーリーのセットアック	22
「梅成」、「シモのナータ・ナース・ナロハナイー	56
の垣加	30 57
「テク・ノース・ノンノレートの有力が一下 データ・ソーフ・テンプレートの複制	50
「「ク・ノーム・ノンノレートの後袋 Commaign 構成プロパティー	50 50
Campaign 何成ノロハノイ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	50
Campaign インストールの絵本	59 60
IBM FMM 製品との統合のためのプロパティーの設	00
市	60
第 8 章 Campaign の複数パーティショ	
ンの構成	61
複数パーティションの動作	61
複数のパーティションのセットアップ	62
パーティション・スーパーユーザー	64
パーティションのデータ・ソース・プロパティー	
の構成.................	64
Campaign のシステム・ユーザーのセットアップ	66
複数のパーティションがある場合の IBM Cognos	
レポートの使用...............	66
パーティションへの役割、権限、およびグループの	
割り当て.................	66
弟 9 早 eMessage じの複数のハーナイ	~~
	69
eMessage のパーティション: 概要	69
eMessage に複数のバーティションを構成するための	
	70
eMessage の新規バーナインヨンの作成	71
ハーティンヨノ用の eMessage ン人テム・テーフル の進徒	70
の準囲	13

手動での eMessage システム・テーブルの作成と	
データ設定	74
IBM EMM Hosted Services にアクセスするシステ	
ム・ユーザーの構成	75
Campaign で新規パーティションに対応するように	
eMessage を使用可能にする	76
eMessage の受信者リスト・アップローダーの場所の	
指定....................	76
eMessage を構成した後のシステム・コンポーネント	
の再始動	77
eMessage パーティションの構成および接続のテスト	77

第 10 章	Marketing	Platform	ユーティ
リティー			

リティー						-		•	. 79	:
alertConfigT	ool								. 81	
configTool .									. 81	
datafilteringS	crip	otT	ool						. 86	

encryptPasswords	5.													87
partitionTool .														89
populateDb.														91
restoreAccess .														92
scheduler_consol	e_cl	ient	t.											94
eMessage レスオ	『ン	スオ	ŝҍ	び	コン	/タ	ク	トの	こと	ラ	ッナ	]—	•	
(RCT) スクリプ	۲													96
eMessage MKSe	rvic	e_r	ct 🤇	スク	7IJ	プ	$\vdash$							97

# 第 11 章 Campaign のアンインストール 99

IBM 技	術サポー	トへの連絡							101
-------	------	-------	--	--	--	--	--	--	-----

特記事項.		103
商標		105
プライバシー	・ポリシーおよび利	用条件の考慮事項 105

# 第1章 インストールの概要

Campaign のインストールは、Campaign をインストール、構成、および配置すると 完了します。「Campaign インストール・ガイド」には、 Campaign のインストー ル、構成、および配置に関する詳細情報が示されています。

『インストール・ロードマップ』セクションを利用すると、「Campaign インストール・ガイド」の使用について幅広く理解することができます。

# インストール・ロードマップ

インストール・ロードマップは、Campaign のインストールに必要な情報を手早く見 つけるためにご利用ください。

表 1では、Campaign をインストールするために実行する必要のあるタスクを概観で きます。次の表の「情報」列には、Campaign をインストールするためのタスクにつ いて説明するトピックへのリンクが記載されています。

章	情報
『第 1 章 インストールの概要』	このトピックには以下の情報が記載されてい
	ます。
	• 4ページの『インストーラーの動作』
	• 5ページの『インストールのモード』
	<ul> <li>5ページの『Campaign と eMessage の統 合』</li> </ul>
	<ul> <li>7ページの『Campaign と IBM EMM 製品の統合』</li> </ul>
	• 8ページの『IBM Campaign の資料のロー ドマップ』
11 ページの『第 2 章 Campaign のインスト ールの計画』	このトピックには以下の情報が記載されてい ます。
	<ul> <li>11ページの『前提条件』</li> </ul>
	・ 13ページの『Campaign のインストール・ ワークシート』
	• 15 ページの『IBM EMM 製品のインスト ール順序』
	<ul> <li>17ページの『Campaign のフェイルオーバ ー構成の計画』</li> </ul>

表1. Campaign インストール・ロードマップ

章	情報
21 ページの『第 3 章 Campaign のデータ・ ソースの準備』	このトピックには以下の情報が記載されてい ます。
	<ul> <li>21ページの『Campaign システム・テーブ ル用のデータベースまたはスキーマの作 成』</li> </ul>
	<ul> <li>22 ページの『ODBC 接続またはネイティ ブ接続の作成』</li> </ul>
	<ul> <li>22 ページの『JDBC ドライバーを使用するための Web アプリケーション・サーバーの構成』</li> </ul>
	<ul> <li>23ページの『Web アプリケーション・サ ーバーでの JDBC 接続の作成』</li> </ul>
27 ページの『第 4 章 Campaign のインスト ール』	このトピックには以下の情報が記載されてい ます。
	<ul> <li>28ページの『GUI モードを使用した Campaign のインストール』</li> </ul>
	• 35 ページの『コンソール・モードを使用 した Campaign のインストール』
	• 36ページの『Campaign のサイレント・イ ンストール』
39 ページの『第 5 章 配置前の Campaign の構成』	このトピックには以下の情報が記載されてい ます。
	• 39ページの『手動での Campaign システム・テーブルの作成とデータ設定』
	<ul> <li>41ページの『手動での Campaign の登録』</li> </ul>
	<ul> <li>43ページの『Campaign 始動スクリプトに おけるデータ・ソース変数の設定 (UNIX のみ)』</li> </ul>
47 ページの『第 6 章 Campaign Web アプ リケーションの配置』	このトピックには以下の情報が記載されてい ます。
	<ul> <li>47ページの『Web アプリケーションのセ ッション・タイムアウトの設定』</li> </ul>
	<ul> <li>47 ページの『WebSphere Application Server への Campaign の配置』</li> </ul>
	<ul> <li>50ページの『WebLogic への Campaign の配置』</li> </ul>
	・ 52 ページの『Campaign サーバーの始動』

表1. Campaign インストール・ロードマップ (続き)

章	情報
55 ページの『第 7 章 配置後の Campaign の構成』	このトピックには以下の情報が記載されてい ます。
	<ul> <li>55ページの『Campaign リスナーが稼働中 であるかどうかの検査』</li> </ul>
	• 55 ページの『Campaign システム・ユーザ ーのセットアップ』
	<ul> <li>56ページの『「構成」ページでのデー タ・ソース・プロパティーの追加』</li> </ul>
	<ul> <li>58 ページの『Campaign 構成プロパティー』</li> </ul>
	<ul> <li>59 ページの『Campaign でのユーザー・テ ーブルのマッピング』</li> </ul>
	<ul> <li>60ページの『Campaign インストールの検査』</li> </ul>
	• 60 ページの『IBM EMM 製品との統合の ためのプロパティーの設定』
61 ページの『第 8 章 Campaign の複数パー ティションの構成』	このトピックには以下の情報が記載されてい ます。
	<ul> <li>61ページの『複数パーティションの動 作』</li> </ul>
	<ul> <li>62ページの『複数のパーティションのセットアップ』</li> </ul>
	<ul> <li>66ページの『パーティションへの役割、 権限、およびグループの割り当て』</li> </ul>

表1. Campaign インストール・ロードマップ (続き)

章	情報
69 ページの『第 9 章 eMessage での複数の パーティションの構成』.	このトピックには以下の情報が記載されてい ます。
	<ul> <li>69ページの『eMessage のパーティション: 概要』</li> </ul>
	<ul> <li>70ページの『eMessage に複数のパーティションを構成するためのロードマップ』</li> </ul>
	<ul> <li>71ページの『eMessage の新規パーティションの作成』</li> </ul>
	<ul> <li>73ページの『パーティション用の eMessage システム・テーブルの準備』</li> </ul>
	<ul> <li>75ページの『IBM EMM Hosted Services にアクセスするシステム・ユーザーの構 成』</li> </ul>
	<ul> <li>76ページの『Campaign で新規パーティションに対応するように eMessage を使用可能にする』</li> </ul>
	<ul> <li>76ページの『eMessage の受信者リスト・ アップローダーの場所の指定』</li> </ul>
	<ul> <li>77ページの『eMessage を構成した後のシ ステム・コンポーネントの再始動』</li> </ul>
	<ul> <li>77ページの『eMessage パーティションの 構成および接続のテスト』</li> </ul>
81 ページの『configTool』	このトピックには以下の情報が記載されてい ます。
	<ul> <li>79ページの『第 10 章 Marketing Platform ユーティリティー』</li> </ul>
	<ul> <li>96ページの『eMessage レスポンスおよび コンタクトのトラッカー (RCT) スクリプ ト』</li> </ul>
	<ul> <li>97ページの『eMessage MKService_rct ス クリプト』</li> </ul>
99 ページの『第 11 章 Campaign のアンイ ンストール』	このトピックには、Campaign をアンインス トールする方法に関する情報が記載されてい ます。

表1. Campaign インストール・ロードマップ (続き)

# インストーラーの動作

どの IBM<sup>®</sup> EMM 製品をインストールする場合も、スイート・インストーラーおよ び製品インストーラーを使用する必要があります。例えば Campaign をインストー ルする場合は、IBM EMM スイート・インストーラーおよび IBM Campaign インス トーラーを使用する必要があります。

IBM EMM スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する前に、 以下のガイドラインを確認してください。

- スイート・インストーラーおよび製品インストーラーは、製品のインストール先のコンピューターの同じディレクトリーにある必要があります。マスター・インストーラーが含まれるディレクトリーに複数のバージョンの製品インストーラーが存在する場合、マスター・インストーラーによってインストール・ウィザードの IBM EMM 製品画面に表示されるのは、必ず製品の最新バージョンとなります。
- IBM EMM 製品のインストール直後にパッチをインストールする場合は、パッチ のインストーラーがスイートおよび製品のインストーラーと同じディレクトリー にあるようにしてください。
- IBM EMM インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは /IBM/EMM (UNIX) または C:¥IBM¥EMM (Windows) です。ただし、このディレクトリーはイン ストール時に変更できます。

# インストールのモード

IBM EMM スイート・インストーラーは、GUI モード、コンソール・モード、また はサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモードで実行できます。 Campaign をインストールする際は要件に見合ったモードを選択してください。

### **GUI モード**

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Campaign をインストール するには、Windows の GUI モード、または UNIX の X Window System モードを 使用します。

### コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Campaign をインストールするには、コ ンソール・モードを使用します。

注: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字 エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。 ANSI な どその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情 報が読み取れなくなります。

## サイレント・モード

Campaign を複数回インストールするには、サイレント・モード (無人モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力を必要としません。

## Campaign と eMessage の統合

IBM Campaign を IBM eMessage と統合すると、eMessage を使用して、高度にパー ソナライズした E メール・マーケティング・キャンペーンを行えます。 eMessage は、IBM がホストしているリソースへのアクセスを提供します。 eMessage を使用 すると、ご使用の顧客データマートに格納された情報に基づいてカスタマイズされ たメッセージを設計し、送信し、個別にモニターすることができます。 Campaign で、フローチャートを使用して、E メール受信者のリストを作成し、各受 信者のパーソナライズ・データを選択します。

eMessage では、E メールの設計、送信、および配信に関して IBM によってホスト されるリソースを使用して、E メール・マーケティング・キャンペーンを行いま す。

IBM Campaign をインストールするときに、インストーラーは IBM eMessage をサ ポートするために必要なファイルを自動的に組み込みます。 eMessage について、 以下のアクションが実行されます。

- eMessage が Campaign ディレクトリー構造内にサブディレクトリーとして作成されます。
- eMessage 構成プロパティーが IBM Marketing Platform でリストされます。ただし、それらの構成プロパティーはアクティブではありません。
- eMessage 固有のデータベース表が Campaign スキーマに作成されます。ただし、 データベース表に入っているのは初期データのみです。
- メニューや eMessage に固有のその他の機能は、eMessage を使用可能にして構成 するまでは表示されません。

パーソナライズされたマーケティング E メールを送信するためには、その前に、ホ ストされた E メール・アカウントをIBM に要求する必要があります。

E メール・アカウントを要求すると、IBM はコンサルテーション・プロセスを開始 します。このプロセスは、お客様に eMessage に慣れ親しんでいただくこと、ホス トされた E メール・リソースにお客様を接続すること、および主要インターネッ ト・サービス・プロバイダー (ISP) の間で正当な E メール・マーケティング担当者 としての評判を確立することを目的としています。顧客や見込み顧客へのマーケテ ィング・メッセージの配信が成功するためには、好ましい評判を確立することが非 常に重要です。

eMessage を使用可能にして構成する方法、およびホストされた E メール・アカウントを準備する方法について詳しくは、「*IBM eMessage起動および管理者ガイド*」を参照してください。

### eMessage コンポーネント

eMessage には、受信者リスト・アップローダー (RLU) と、レスポンスおよびコン タクトのトラッカー (RCT) と呼ばれる特殊なコンポーネントが必要です。

RLU は、Campaign と連動して、E メール受信者のリストに関連付けられたアドレス、パーソナライズ・データ、およびメタデータを IBM EMM Hosted Services に アップロードする、eMessage プラグイン・コンポーネントです。

eMessage RCT は、IBM EMM Hosted Services からリンク・トラッキングおよび E メール配信通知データを取得し、Campaign スキーマ内にある eMessage システム・ テーブルにデータを保管します。

eMessage コンポーネントは、IBM eMessage を使用可能にして構成した場合に作動 します。 eMessage を使用可能にして RLU および RCT と連動する方法について 詳しくは、「*IBM eMessage 起動および管理者ガイド*」を参照してください。

## デフォルトでのコンポーネントのインストール場所

IBM インストーラーは、Campaign J2EE アプリケーションがインストールされたコ ンピューター上に RLU を配置します。 RLU の場所は、「キャンペーン」>「パー ティション」>「パーティション 1」>「eMessage」>「eMessagePluginJarFile」構成 プロパティーに記録されます。

インストーラーは、Campaign サーバーがインストールされたコンピューター上に RCT を配置します。

J2EE コンポーネントとサーバー・コンポーネントが別々のコンピューターにある場 合は、各マシンでインストーラーを実行して、J2EE アプリケーションに対しては RLU を、Campaign サーバーに対しては RCT をそれぞれインストールしてくださ い。

## 複数のパーティションでの eMessage コンポーネント

eMessage インストール済み環境全体に存在する RLU は 1 つです。インストーラ ーは、デフォルト・パーティションについてのみ eMessagePluginJarFile 構成プロ パティーにデータを設定します。 eMessage インストール済み環境で複数のパーテ ィションを使用している場合は、他のすべてのパーティションの RLU の場所を手 動で構成する必要があります。eMessagePluginJarFile プロパティーに指定する場 所は、すべてのパーティションで同じです。詳しくは、76 ページの『eMessage の 受信者リスト・アップローダーの場所の指定』を参照してください。

eMessage インストール済み環境全体で 1 つの RCT しか存在しません。 eMessage では、RCT の位置を構成プロパティーに指定する必要はありません。 RCT が受信 するレスポンスにより、正しいレスポンス属性に該当するローカル・パーティションが自動的に指定されます。

# Campaign と IBM EMM 製品の統合

Campaign を複数の IBM EMM 製品と統合して、キャンペーンをカスタマイズする ことができます。

Campaign は、以下の IBM EMM 製品と統合します。

- IBM Marketing Operations
- IBM Digital Analytics
- IBM SPSS® Modeler Marketing Edition

詳しくは、各製品の資料を参照してください。さらに、Campaign とその他の IBM EMM 製品の統合について詳しくは、「*IBM Campaign インストール・ガイド*」を 参照してください。

重要: Campaign と PredictiveInsight の統合はサポートされなくなりました。 PredictiveInsight は IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition に置き換えられ ました。 PredictiveInsight を使用している Campaign インストール済み環境に Campaign バージョン 9.1 をインストールすると、既存のフローチャートのモデル 処理およびスコア処理を使用できなくなります。 Campaign で予測モデリングを引 き続き使用するには、IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition をインスト ールして、必要な処理を再定義する必要があります。詳しくは、「*IBM Campaign* および *IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition 統合ガイド*」を参照してく ださい。

# IBM Campaign の資料のロードマップ

IBM Campaign には、ユーザー、管理者、および開発者用の資料とヘルプが備わっています。

表 2. 概要情報

作業	資料
新機能、既知の問題、および制約事項のリストを表示する	IBM Campaign リリース・ノート
Campaign データベースの構造について理解する	IBM Campaign System Tables and Data Dictionary
Campaign をインストール/アップグレードして Campaign	以下のいずれかのガイド:
Web アプリケーションをデプロイする	• IBM Campaign インストール・ガイド
	• IBM Campaign アップグレード・ガイド
eMessage を実装する (eMessage を購入した場合)	<ul> <li>「IBM Campaign インストール・ガイド」および「アッ プグレード・ガイド」では、ローカル環境における eMessage コンポーネントのインストールと準備の方法 が説明されています。</li> <li>「IBM eMessage 起動および管理者ガイド」には、ホ スト・メッセージング・リソースに接続する方法が説 明されています。</li> </ul>
Campaign に備わっている IBM Cognos <sup>®</sup> レポートを実装 する	IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド

表 3. Campaign の構成および使用

作業	資料
• 構成とセキュリティーの設定を調整する	IBM Campaign 管理者ガイド
• ユーザー用に Campaign を準備する	
• ユーティリティーを実行して保守を行う	
• Campaign を Digital Analytics と統合する	
• マーケティング・キャンペーンを作成およびデプロイ	IBM Campaign ユーザー・ガイド
する	
• キャンペーン結果を分析する	
フローチャート・パフォーマンスを改善する	
	IBM Campaign ナユーニング・カイド
Campaign マクロを使用する	IBM IBM EMM のマクロ ユーザー・ガイド

作業	資料
eMessage オファー統合を構成する。	IBM Campaign 管理者ガイド
Campaign を Digital Analytics と統合して使用する	IBM Campaign 管理者ガイド
Campaign を IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition と統合して使用する	IBM Campaign および IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition 統合ガイド

表 4. Campaign と他の製品との統合 (続き)

作業	資料
Campaign を Marketing Operations と統合して使用する	IBM Marketing Operations および IBM Campaign 統合ガ イド

## 表 5. Campaign 用の開発

作業	資料
API を使用したカスタム・プロシージャーを開発する	• IBM Campaign オファー API 仕様
	・ devkits¥CampaignServicesAPI の JavaDocs
Java <sup>™</sup> プラグインまたはコマンド行実行可能プログラムを 開発して Campaign に検証を追加する	• IBM Campaign 検証 PDK ガイド
	・ devkits¥validation の JavaDocs

### 表 6. ヘルプの取得

作業	説明
オンライン・ヘルプを開く	<ol> <li>「ヘルプ」&gt;「このページのヘルプ」と選択し、コン テキスト・ヘルプ・トピックを開きます。</li> </ol>
	<ol> <li>ヘルプ・ウィンドウの「ナビゲーションの表示 (Show Navigation)」アイコンをクリックして、詳細ヘルプを表示します。</li> </ol>
PDF を入手する	以下のいずれかの方法を使用します。
	<ul> <li>「ヘルプ」&gt;「製品資料」と選択し、Campaign PDF に アクセスします。</li> </ul>
	<ul> <li>「ヘルプ」&gt;「IBM EMM Suite のすべての資料」と選択し、すべての使用可能な資料にアクセスします。</li> </ul>
	• IBM EMM インストーラーにおけるインストール・プ ロセス中にすべての資料にアクセスします。
サポートを利用する	http://www.ibm.com/ ヘアクセスし、「Support & downloads」をクリックして IBM サポート・ポータルヘ アクセスします。

# 第2章 Campaign のインストールの計画

Campaign のインストールを計画している場合、システムが正しくセットアップされていること、環境が障害に対処できるように構成されていることを確認する必要があります。

# 前提条件

IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用 のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たし ていることを確認する必要があります。

## システム要件

システム要件について詳しくは、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

## ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM EMM 製品は同じネットワーク・ドメイン にインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スクリプティングで 生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザー制限に準 拠するためです。

### JVM 要件

スイート内の IBM EMM アプリケーションは、専用の Java<sup>™</sup> 仮想マシン (JVM) に配置しなければなりません。IBM EMM 製品は、Web アプリケーション・サーバ ーによって使用される JVM をカスタマイズします。JVM に関連するエラーが発生 する場合、IBM EMM 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere<sup>®</sup>ドメインを 作成する必要があります。

### 知識要件

IBM EMM 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関す る知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、 および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

### アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを 確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理権限。
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM EMM コンポーネントを実行する ために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリー およびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限
- 編集する必要のあるすべてのファイルに対する書き込み権限。

- インストール・ディレクトリーやアップグレード時のバックアップ・ディレクト リーなどの、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書 き込み権限。
- インストーラーを実行するための適切な読み取り/書き込み/実行の権限。

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認して ください。

UNIX の場合、以下の追加の権限が必要です。

- Campaign および Marketing Platform をインストールするユーザー・アカウントは、Campaign ユーザーと同じグループのメンバーである必要があります。このユーザー・アカウントには、有効なホーム・ディレクトリーがなければならず、そのディレクトリーに対する書き込み権限も必要です。
- IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、rwxr-xr-x) が必要です。

### JAVA\_HOME 環境変数

IBM EMM 製品をインストールするコンピューターに JAVA\_HOME 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていること を確認してください。システム要件について詳しくは、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

JAVA\_HOME 環境変数が JRE 1.6 を指していることを確認します。 JAVA\_HOME 環境 変数が正しくない JRE を指している場合、IBM EMM インストーラーを実行する 前に、その JAVA HOME 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、JAVA HOME 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、set JAVA\_HOME= (空のままにする) と入力して、Enter キーを押します。
- UNIX: 端末で、export JAVA\_HOME= (空のままにする) と入力して、Enter キーを 押します。

export JAVA\_HOME= (空のままにする)

環境変数をクリアした後、IBM EMM インストーラーは、インストーラーにバンド ルされている JRE を使用します。インストールの完了後、この環境変数を再設定で きます。

### Marketing Platform の要件

何らかの IBM EMM 製品をインストールする前に、Marketing Platform をインスト ールする必要があります。一緒に機能する製品のグループごとに、Marketing Platform を 1 回だけインストールする必要があります。各製品インストーラーは、 必要な製品がインストールされているかどうかを検査します。ご使用の製品または バージョンが Marketing Platform に登録されていない場合、インストールを続行す る前に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードすることを求める メッセージが表示されます。「設定」>「構成」ページでプロパティーを設定するに は、その前に、 Marketing Platform が配置済みであり、稼働している必要がありま す。

# Campaign のインストール・ワークシート

Campaign インストール・ワークシートは、Campaign のインストール時に必要になる Campaign データベースに関する情報と、その他の IBM EMM 製品に関する情報を収集するために使用します。

次の表を使用して、Campaign システム・テーブルが含まれているデータベースに関 する情報を収集してください。

表 7. データベースに関する情報

フィールド	メモ
データベース・タイプ	
データベース名	
データベース・アカウントのユーザー名	
データベース・アカウントのパスワード	
JNDI 名	UnicaPlatformDS
ODBC 名	

UNIX にインストールする場合は、次に表に示されている情報を入手してください。

表 8. データベースに関する情報 (UNIX の場合)

データベース情報	メモ
データベース・タイプが次のいずれかのタイ	
プである場合は、データベース・インストー	
ル・ディレクトリーを記録してください。	
• DB2 <sup>®</sup>	
• Oracle	
Campaign を Solaris、Linux、または AIX®	
オペレーティング・システムにインストール	
する場合は、すべてのデータベース・タイプ	
の場合に、データベースのインストール先の	
lib ディレクトリーの場所を記録してくださ	
٥٤٩	

表8に記録した情報は、インストールおよび構成の処理で setenv.sh ファイルを編 集するときに利用できます。

### IBM Marketing Platform データベースのためのチェックリスト

IBM EMM の各製品のインストール・ウィザードは、製品を登録するために、 Marketing Platform のシステム・テーブル・データベースと通信できなければなりま せん。インストーラーを実行するたびに、Marketing Platform のシステム・テーブ ル・データベースに関する以下のデータベース接続情報を入力する必要がありま す。

- JDBC 接続 URL
- データベース・ホスト名
- データベース・ポート

- データベース名またはスキーマ ID
- データベース・アカウントのユーザー名とパスワード

# IBM Marketing Platform を Web アプリケーション・サーバーに配置する場合のチェックリスト

Marketing Platform を配置する前に、以下の情報を入手してください。

- プロトコル: HTTP または HTTPS (Web アプリケーション・サーバーに SSL が 実装されている場合)。
- ホスト: Marketing Platform の配置先となるマシンの名前。
- ポート: Web アプリケーション・サーバーが listen するポート。
- ドメイン・ネーム: IBM 製品がインストールされる各マシンの会社のドメイン。 例えば、example.com。すべての IBM 製品を同じ会社のドメインにインストール する必要があります。また、ドメイン・ネームはすべて英小文字で入力する必要 があります。

ドメイン名の入力に不一致があると、Marketing Platform の機能を使用しようとし た場合や、製品間を移動しようとした場合に、問題が発生することがあります。 製品の配置後にドメイン・ネームを変更できます。そうするには、ログインし て、「設定」>「構成」ページの製品ナビゲーション・カテゴリーで該当する構成 プロパティーの値を変更します。

## Marketing Platform ユーティリティーを使用可能にする場合のチェ ックリスト

Marketing Platform ユーティリティーの使用を予定している場合、Marketing Platform のインストールを始める前に、以下の JDBC 接続情報を入手してください。

JRE のパス。デフォルト値は、インストーラーによって IBM インストール・ディレクトリーの下に配置される JRE バージョン 1.7 のパスです。

このデフォルトを受け入れることも、別のパスを指定することもできます。別の パスを指定する場合は Sun JRE のバージョン 1.7 を指す必要があります。

- JDBC ドライバー・クラス。これは、インストーラーで指定したデータベース・ タイプに基づき、インストーラーによって自動的に提供されます。
- JDBC 接続 URL。インストーラーにより、ホスト名、データベース名、およびポートを含む基本的な構文が提供されます。追加のパラメーターを指定して URL をカスタマイズすることもできます。
- システム上の JDBC ドライバー・クラスパス。

### Web コンポーネントに関する情報

Web アプリケーション・サーバーに配置する、Web コンポーネントを持つすべての IBM EMM 製品について、以下の情報を取得します。

 Web アプリケーション・サーバーがインストールされるシステムの名前。セット アップする IBM EMM 環境に応じて、1 つまたは複数の Web アプリケーショ ン・サーバーを使用できます。

- アプリケーション・サーバーが listen するポート。SSL を実装する予定の場合、SSL ポートを取得します。
- 配置システムのネットワーク・ドメイン。例えば、mycompany.com などです。

### IBM サイト ID

IBM EMM 製品を、製品インストーラーの「インストールする国」画面にリストさ れたいずれかの国でインストールする場合は、所定のスペースに IBM サイト ID を入力する必要があります。 IBM サイト ID は、以下のいずれかの資料に記載さ れています。

- IBM ウェルカム・レター
- 技術サポート・ウェルカム・レター
- ライセンス証書レター
- ソフトウェアの購入時に送付されたその他の通知

IBM は、お客様の製品使用状況をより良く把握してカスタマー・サポートの改善を 図るために、インストールされたソフトウェアから提供されるデータを使用するこ とがあります。収集されるデータには、個人を特定する情報は含まれていません。 このような情報の収集を希望しないお客様は、以下の操作を実行してください。

- 1. Marketing Platform をインストールした後、管理特権を持つユーザーとして Marketing Platform にログオンします。
- 「設定」>「構成」に移動し、「Platform」カテゴリーの 「Page Tagging を無 効にする」 プロパティーを True に設定します。

## IBM EMM 製品のインストール順序

複数の IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードするときは、それらを 特定の順序でインストールする必要があります。

次の表には、複数の IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードするとき に従う必要のある順序についての情報が示されています。

表 9. IBM EMM 製品のインストールまたはアップグレードの順序

製品または組み合わせ:	インストールまたはアップグレードの順序:
Campaign (eMessage 付きまたはなし)	1. Marketing Platform
	2. Campaign
	<b>注:</b> eMessage は、Campaign をインストールする際に自動的にインストールさ れます。ただし、eMessage が Campaign インストール・プロセス中に構成さ れたり有効にされたりすることはありません。

表 9. IBM EMM 製品のインストールまたはアップグレードの順序 (続き)

製品または組み合わせ:	インストールまたはアップグレードの順序:
Interact	1. Marketing Platform
	2. Campaign
	3. Interact 設計時間環境
	4. Interact ランタイム環境
	5. Interact Extreme Scale サーバー
	Interact 設計時間環境だけをインストールまたはアップグレードする場合、 Interact 設計時間環境を以下の順序でインストールまたはアップグレードしま す。
	1. Marketing Platform
	2. Campaign
	3. Interact 設計時間環境
	Interact ランタイム環境だけをインストールまたはアップグレードする場合、 Interact ランタイム環境を以下の順序でインストールまたはアップグレードします。
	1. Marketing Platform
	2. Interact ランタイム環境
	Interact Extreme Scale サーバーだけをインストールする場合、 Interact Extreme Scale サーバーを以下の順序でインストールします。
	1. Marketing Platform
	2. Interact ランタイム環境
	3. Interact Extreme Scale サーバー
Marketing Operations	1. Marketing Platform
	2. Marketing Operations
	<b>注:</b> Marketing Operations を Campaign に統合する場合、Campaign もインストールする必要があります。それら 2 つの製品は任意の順序でインストールできます。
Distributed Marketing	1. Marketing Platform
	2. Campaign
	3. Distributed Marketing
Interaction History	1. Marketing Platform
	2. Interaction History
Attribution Modeler	1. Marketing Platform
	2. Interaction History
	3. Attribution Modeler
Contact Optimization	1. Marketing Platform
	2. Campaign
	3. Contact Optimization

表 9. IBM EMM 製品のインストールまたはアップグレードの順序 (続き)

製品または組み合わせ:	インストールまたはアップグレードの順序:
Opportunity Detection	1. Marketing Platform
	2. Opportunity Detection
	Opportunity Detection が Interact に統合されている場合、製品を以下の順序で インストールします。
	1. Marketing Platform
	2. Campaign
	3. Interact
	4. Opportunity Detection
IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition	1. IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition

# Campaign のフェイルオーバー構成の計画

Campaign をインストールするとき、Web アプリケーション・サーバーのどんな障害にも対処できるように環境を構成することができます。

### 用語の定義

コンポーネント	インストール・オプション	定義
Campaign Web アプリケーシ	J2EE アプリケーション	Campaign ユーザー・インタ
ョン・サーバー		ーフェースを提供する Web
		アプリケーション。
Campaign バックエンド・サ	Campaign サーバー	フローチャートの設計と実行
ーバー		をサポートする起動スクリプ
		トおよびコンポーネント。

## Campaign Web アプリケーション・サーバー・コンポーネント

Campaign Web アプリケーション・サーバー・コンポーネントは、ロード・バラン ス Web アプリケーション環境をサポートしていません。ただし、スタンバイ・サ ーバーを使用して、Web アプリケーション・サーバーの障害に対処するように環境 を構成できます。 Campaign のスタンバイ Web アプリケーション・サーバーへの 切り替えプロセスについて、以下で説明します。

Campaign では、ユーザー・インターフェースでの応答時間を向上させるために、オファーなどの特定のオブジェクトは Web アプリケーション・サーバーでキャッシュされます。ロード・バランス環境では、Web アプリケーション・サーバーで作成されたオファーが、別のサーバーを介してセッションに接続するユーザーに対して、すぐには使用可能にならないことがあります。この問題を回避するために、Campaign はロード・バランス構成をサポートしていません。

キャッシュされるオブジェクトとしては、オファー、オファー・テンプレート、オファー属性、キャンペーン、セッション、フォルダー、属性、イニシアチブ、セグ メントがあります。キャッシュがリフレッシュされる頻度は、Campaign キャッシュ 構成設定 (offerTemplateDataTTLSeconds など) を調整することによって構成できま す。ただし、この調整はパフォーマンスに影響を与える恐れがあります。構成設定 についての説明が、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」に記載されています。

スタンバイ・サーバーを備えた構成を使用することにより、Web アプリケーショ ン・サーバーの障害が発生した場合に、アプリケーション可用性の中断を最小限に 抑えることができます。 Campaign システム・テーブルは外部データベースに格納 されるので、スタンバイ・サーバーにデータを複製する必要はありません。プライ マリー Web アプリケーション・サーバーで障害が起こった場合は、スタンバイ・ サーバーで Campaign Web アプリケーションが開始されなければなりません。開始 された Campaign Web アプリケーションは、Campaign システム・テーブル・デー タベースからすべての現行データを取得します。

### Campaign バックエンド・サーバー・コンポーネント

推奨構成は、2 つの別個の Campaign サーバー(1 つは「ホット」、1 つは「コー ルド」)で構成されます。「ホット」サーバーは使用されているサーバーで、「コ ールド」サーバーはスタンバイ中のサーバーです。単一のバックエンド・サーバー に複数の Web アプリケーション・サーバーがアクセスできるようにすることは、 パフォーマンスに影響を与える恐れがあるため、推奨されません。(パフォーマン ス上の理由で) Web アプリケーション・サーバーとバックエンド・サーバーの間に 1 対 1 の関係があることを前提とした場合、別々のマシンにサーバーを置くと障害 点が増えることになります。 1 つを Web アプリケーション専用のサーバーにし、 1 つをバックエンド・サーバー用にすることの利点は、両方を適切にチューニング できることにあります。 Web アプリケーション・サーバーが他の Web アプリケー ションのためにも使用される場合は、バックエンド・サーバーが Web アプリケー ション・サーバーにパフォーマンス上の影響を与えるのを避けるために、別個のバ ックエンド・サーバーを使用することを検討してください。この決定はケース・バ イ・ケースで行う必要があり、多くの場合、実装計画の一部になります。

次の図は、推奨構成を示しています。



この構成には、次のように、IBM Campaign 以外の依存項目がいくつか含まれています。

- ファイル・システムとデータベースは共有されて高可用性でなければなりません。この要件を達成するには、ファイル・システム・アプライアンスや RAID、 データベース・ベンダー・ソリューションなど、いくつかのアプローチがあります。しかし、これらのテクノロジーの高可用性は、IBM Campaign アプリケーションの範囲外です。
- 共有ファイル・システムは、サーバー A および B にマウントされなければなり ません。Campaign では、予期される特定のパーティション・ディレクトリー構造 内にルート・ノードが存在する必要があるためです。
- フェイルオーバーをサポートするには、以下の処理を行うための追加ソフトウェア(カスタム品または市販品)が必要です。
  - 1. Campaign バックエンド・サーバーが稼働中であることを確認します。
  - 2. 障害が発生した場合に 1 次 バックエンド・サーバーを停止する (該当する場合)。
  - 3. 障害が発生した場合に 2次 バックエンド・サーバーを開始する。
  - 1 次バックエンド・サーバーから 2 次バックエンド・サーバーに Web 層要 求をリダイレクトする。

# 第 3 章 Campaign のデータ・ソースの準備

Campaign は、ユーザー・データおよび対話データを格納するためにデータ・ソース を使用します。

Campaign のデータ・ソースを準備するには、以下の手順を実行します。

1. Campaign のシステム・テーブル用にデータベースまたはデータベース・スキー マを作成します。

注: Campaign は顧客テーブルを必要とします。これらのテーブルは、既に存在 していなければなりません。

- システム・ユーザー・アカウントを作成します。システム・ユーザー・アカウントには、CREATE、DELETE、DROP、INSERT、SELECT、および UPDATE 権限が必要です。
- 3. ODBC 接続またはネイティブ接続を作成します。
- 4. JDBC ドライバーを使用するために Web アプリケーション・サーバーを構成し ます。
- 5. Web アプリケーション・サーバーに JDBC データ・ソースを作成します。

# Campaign システム・テーブル用のデータベースまたはスキーマの作成

Campaign がユーザー・データや対話データを格納できるように、データ・ソースを セットアップします。複数のパーティションがある場合は、Campaign を使用可能に するパーティションごとにデータ・ソースを作成してください。

Campaign システム・テーブル用のデータベースまたはデータベース・スキーマを作 成するには、以下の手順を実行します。

**注:** Campaign は顧客テーブルを必要とします。これらのテーブルは、既に存在して いなければなりません。

1. インストール・プロセスで後ほど必要になるシステム・ユーザー・アカウントを 作成します。

注: システム・ユーザー・アカウントには、 CREATE、DELETE、DROP、INSERT、SELECT、および UPDATE 権限が必要 です。

 13ページの『Campaign のインストール・ワークシート』を印刷します。データ ベースまたはスキーマの情報とデータベース・アカウントの情報を入手して、そ の情報をチェックリストに記録します。このセクションの残りのステップを実行 していく中で、チェックリストへの記入を続けてください。こうすることで、そ の情報を後にインストール処理で使用できるようになります。

注: インストール時に Campaign スキーマに IBM eMessage システム・テーブル が作成されます。ただし、eMessage が使用可能に設定されるわけではありません。

## ODBC 接続またはネイティブ接続の作成

Campaign サーバーが Campaign データベースにアクセスできるようにするため、 ODBC 接続またはネイティブ接続を作成します。 ODBC 接続またはネイティブ接 続は、Campaign サーバーをインストールしたコンピューター上に作成します。

Campaign サーバーがインストールされたコンピューターには、以下のデータベース への ODBC 接続またはネイティブ接続が必要です。

- Campaign システム・テーブルを格納するデータベースまたはスキーマ
- 顧客テーブルを格納するデータベースまたはスキーマ

これらの ODBC 接続またはネイティブ接続を作成するには、以下のガイドラインに 従ってください。

- UNIX 上のデータベースの場合: DB2 および Oracle データベースの場合はネイ ティブ接続を作成し、SQL サーバー、Teradata、Netezza<sup>®</sup> などの他のデータベー スの場合は ODBC 接続を作成します。ネイティブ・データ・ソースを作成する 手順は、データ・ソースのタイプおよび UNIX のバージョンによって異なりま す。特定の ODBC ドライバーのインストールおよび構成方法については、デー タ・ソースおよびオペレーティング・システムの文書を参照してください。
- Windows 上のデータベースの場合:「コントロール パネル」の「管理ツール」>
   「データ ソース (ODBC)」セクションで、新しい ODBC 接続を作成します。

ODBC 名を13ページの『Campaign のインストール・ワークシート』に記録してください。

# JDBC ドライバーを使用するための Web アプリケーション・サーバーの 構成

Campaign を配置する予定の Web アプリケーション・サーバーには、JDBC 接続を サポートするための適切な JAR ファイルがなければなりません。Web アプリケー ション・サーバーのクラスパスに、JAR ファイルの場所を追加する必要がありま す。

Campaign の接続先となるデータベース・タイプごとに以下のアクションを実行して、Campaign システム・テーブルに Campaign Java<sup>™</sup> コンポーネントがアクセスで きるようにします。

- 1. 「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」の資料を調べて、ご使用のデータベース・タイプに合う適切な JAR ファイルを判別します。 以下のデ ータベース・ドライバーがサポートされています。
  - サポートされるバージョンの MS SQL Server の場合: sqljdbc4.jar
  - IBM DB2 9.7 の場合: db2jcc.jar
  - IBM DB2 10.1 の場合: db2jcc4.jar
  - サポートされるバージョンの Oracle の場合: ojdbc6.jar
- 2. IBM EMM がサポートしている、ベンダー提供の最新のタイプ 4 JDBC ドライ バーを入手します。

- Campaign を配置する予定のマシンにドライバーが存在しない場合は、そのマシン上の任意の場所にドライバーをコピーします。スペースを含まないパスにドライバーを解凍してください。
- データ・ソース・クライアントがインストールされているマシンからドライバ ーを入手する場合は、バージョンがサポートされていることを確認してください。
- 3. ドライバーの絶対パスとファイル名を、Campaign を配置する予定の Web アプ リケーション・サーバーのクラスパスに含めます。
  - サポートされるすべてのバージョンの WebLogic で、環境変数が構成される WebLogic\_domain\_directory/bin ディレクトリーの setDomainEnv スクリプト にクラスパスを設定します。

ドライバーは CLASSPATH の値のリスト内ですべての既存値よりも前の最初 のエントリーでなければなりません。以下に例を示します。

### UNIX

CLASSPATH="/home/oracle/product/<*version*>/jdbc/lib/ojdbc6.jar: \${PRE\_CLASSPATH}\${CLASSPATHSEP}\${WEBLOGIC\_CLASSPATH} \${CLASSPATHSEP}\${POST\_CLASSPATH}\${CLASSPATHSEP}\${WLP\_POST\_CLASSPATH}" export CLASSPATH

### Windows

set CLASSPATH=c:¥oracle¥jdbc¥lib¥ojdbc6.jar;%PRE\_CLASSPATH%; %WEBLOGIC\_CLASSPATH%;%POST\_CLASSPATH%;%WLP\_POST\_CLASSPATH%

- サポートされているすべてのバージョンの WebSphere で、IBM EMM 製品の ための JDBC プロバイダーをセットアップする際に、管理コンソールでクラ スパスを設定します。
- 4. Web アプリケーション・サーバーを再始動して、行った変更を有効にしてくだ さい。

起動の際に、コンソール・ログをモニターして、クラスパスにデータベース・ド ライバーへのパスが含まれていることを確認します。

# Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の作成

Campaign を配置するそれぞれの Web アプリケーション・サーバー上に JDBC 接続を作成します。 Campaign は、JDBC 接続を使用して必要なデータベースにアク セスします。

以下の手順を実行して、JDBC プロバイダーを指定します。

- 1. Websphere コンソールにログインします。
- 2. 「リソース」>「JDBC」>「JDBC プロバイダー」に移動します。
- 3. 「新規」をクリックして、「新規 JDBC プロバイダーの作成」ウィンドウを開 きます。
- 4. 「**データベース・タイプ**」フィールドで、以下のいずれかのデータベース・タイ プを選択します。
  - DB2
  - Oracle

SQL Server

- 5. 「**プロバイダー・タイプ**」フィールドで、ご使用のデータベース・タイプに該当 するタイプ 4 の JDBC ドライバーを選択します。
- 6. 「実装タイプ」フィールドで、「接続プール・データ・ソース」を選択します。
- 7. 「次へ」をクリックして、必要な情報を入力します。
- 8. 「次へ」をクリックして、要約を表示します。
- 9. 「終了」をクリックして、JDBC プロバイダーを構成します。

Campaign Web アプリケーションに作成する必要がある JDBC 接続を特定するに は、以下のリストを使用してください。このリストには、推奨される JNDI 名およ び必須の JNDI 名が記載されています。

• Campaign システム・テーブルを保持するデータベースへの接続。

パーティションが 1 つの場合、推奨される JNDI 名は campaignPartition1DS で す。

複数のパーティションがある場合のベスト・プラクティスは、最初の接続には campaignPartition1DS を使用し、2 番目の接続には campaignPartition2DS を使 用し、以下同様、とすることです。

注: このプラクティスは、一例として記載したものです。 Campaign システム・ テーブル接続には、任意の JNDI 名を指定できます。

• Marketing Platform システム・テーブルを保持するデータベースへの接続。 UnicaPlatformDS を JNDI 名として使用します。

重要: UnicaPlatformDS は、必須の JNDI 名です。

Campaign を、Marketing Platform と同じ JVM に配置している場合は、この接続 が既にセットアップされているはずです。

JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する方法について詳しく は、WebLogic または WebSphere の資料を参照してください。

注: WebLogic を使用して、Oracle または DB2 データベースのデータ・ソースを 構成する場合、「接続プール (Connection Pool)」タブの「プロパティー」セクシ ョンに、user=<DBUser> の形式でデータベース・ユーザー名を指定する必要もあ ります。詳しくは、WebLogic の資料を参照してください。

すべての JNDI 名を13ページの『Campaign のインストール・ワークシート』に記録します。

## JDBC 接続を作成するための情報

JDBC 接続を作成する時、特定の値が提供されていない場合は、デフォルト値を使用します。詳しくは、アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

**注:** データベース用にデフォルトのポート設定を使用していない場合は、適切な値 に設定が変更されていることを確認してください。

## WebLogic

アプリケーション・サーバーが WebLogic の場合は、以下の値を使用します。

SQL Server

- データベース・ドライバー: Microsoft MS SQL Server Driver (Type 4) Versions: 2008、2008R2
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
- ドライバー URL: jdbc:sqlserver://
   <your\_db\_host>:<your\_db\_port>;databaseName=<your\_db\_name>
- プロパティー: user=<your\_db\_user\_name> を追加

Oracle 11 および 11 g

- ドライバー: その他
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL: jdbc:oracle:thin:@<your db host>:<your db port>:<your db service name>

示されている形式を使用してドライバーの URL を入力します。 IBM EMM ア プリケーションでは、JDBC 接続に Oracle の RAC (Real Application Clusters) の 書式を使用することは許可されません。

• プロパティー: user=<your\_db\_user\_name> を追加

### DB2

- ドライバー: その他
- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ・ ドライバー URL: jdbc:db2://<your\_db\_host>:<your\_db\_port>/<your\_db\_name>
- プロパティー: user=<your\_db\_user\_name> を追加

### WebSphere

アプリケーション・サーバーが WebSphere の場合は、以下の値を使用します。

SQL Server

- ドライバー: 該当なし
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource
- ドライバー URL: 該当なし

「データベース・タイプ」フィールドで、「ユーザー定義」を選択します。

JDBC プロバイダーとデータ・ソースを作成した後、データ・ソースの「**カスタ** ム・プロパティー」に移動し、以下のようにプロパティーを追加および変更しま す。

- serverName=<your\_SQL\_server\_name>
- portNumber =<SQL Server Port Number>
- databaseName=<your\_database\_name>

以下のカスタム・プロパティーを追加します。

Name: webSphereDefaultIsolationLevel

Value: 1

### Datatype: Integer

Oracle 11 および 11 g

- ドライバー: Oracle JDBC ドライバー
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL: jdbc:oracle:thin:@<your\_db\_host>:<your\_db\_port>:<your\_db\_service\_name>

示されている形式を使用してドライバーの URL を入力します。 IBM EMM ア プリケーションでは、JDBC 接続に Oracle の RAC (Real Application Clusters) の 書式を使用することは許可されません。

#### DB2

- ドライバー: DB2 Universal JDBC ドライバー・プロバイダー
- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ・ ドライバー URL: jdbc:db2://<your\_db\_host>:<your\_db\_port>/<your\_db\_name>

以下のカスタム・プロパティーを追加します。

Name: webSphereDefaultIsolationLevel

Value: 2

Datatype: Integer

# 第4章 Campaign のインストール

Campaign のインストールを開始するには、IBM EMM インストーラーを実行する 必要があります。 IBM EMM インストーラーは、インストール・プロセスの間に、 Campaign インストーラーを開始します。 IBM EMM インストーラーと製品インス トーラーが同じ場所に保存されていることを確認してください。

IBM EMM スイート・インストーラーを実行するたびに、まず Marketing Platform システム・テーブルに関するデータベース接続情報を入力する必要があります。 Campaign インストーラーが開始するときに、Campaign に関する必要な情報を入力 する必要があります。

Campaign をインストールした後で、製品の EAR ファイルを作成し、製品のレポート・パッケージをインストールすることができます。 EAR ファイルの作成および レポート・パッケージのインストールは、必須のアクションではありません。

重要: Campaign をインストールする前に、Campaign をインストールするコンピュ ーター上の使用可能な一時スペースが、Campaign インストーラーのサイズの 3 倍 を超えていることを確認してください。

### インストール・ファイル

インストール・ファイルは、製品のバージョンおよびその製品をインストールする 必要のあるオペレーティング・システム (UNIX を除く) に従って命名されます。 UNIX の場合、X Window System モード用とコンソール・モード用の異なるインス トール・ファイルが存在します。

次の表に、製品のバージョンとオペレーティング・システムに従って命名されたイ ンストール・ファイルの例を示しています。

表 10. インストール・ファイル

オペレーティング・システム	インストール・ファイル
Windows: GUI およびコンソール・モード	Product_N.N.N.N_win64.exe。ここで、 Product はご使用の製品の名前、N.N.N.N は その製品のバージョン番号であり、ファイル のインストール先オペレーティング・システ ムは Windows 64 ビット版でなければなりま せん。
UNIX: X Window System モード	Product_N.N.N.N_solaris64.bin。ここで、 Product はご使用の製品の名前、N.N.N.N は その製品のバージョン番号です。
UNIX: コンソール・モード	Product_N.N.N.bin。ここで、Product はご 使用の製品の名前、N.N.N.N はその製品のバ ージョン番号です。すべての UNIX オペレ ーティング・システムで、このファイルをイ ンストールに使用できます。

# GUI モードを使用した Campaign のインストール

Windows の場合は、GUI モードを使用して Campaign をインストールします。 UNIX の場合は、X Window システム・モードを使用して Campaign をインストー ルします。

**重要:** GUI モードを使用して Campaign をインストールする前に、Campaign のインストール先のコンピューター上で使用可能な一時スペースが Campaign インストーラーのサイズの 3 倍より多いことを確認してください。

IBM EMM インストーラーと Campaign インストーラーが、Campaign のインスト ール先のコンピューター上の同じディレクトリー内にあることを確認してくださ い。

GUI モードを使用して Campaign をインストールするには、以下の操作を実行して ください。

- 1. IBM EMM インストーラーを保存したフォルダーに移動し、インストーラーをダ ブルクリックして開始します。
- 2. 最初の画面で「OK」をクリックします。「概要」ウィンドウが表示されます。
- 3. インストーラーの指示に従い、「次へ」をクリックします。 以下の表に記載さ れた情報を使用して、EMM インストーラーの各ウィンドウで適切な操作を実行 してください。

表11. IBM EMM インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明
概要	これは、IBM EMM スイート・インストーラ ーの最初のウィンドウです。このウィンドウ から Campaign のインストール・ガイドとア ップグレード・ガイドを開くことができま す。さらに、インストール・ディレクトリー にインストーラーが保存されている製品のイ ンストール・ガイドとアップグレード・ガイ ドへのリンクも表示されます。
応答ファイルの宛先	<ul> <li>(エクより。)</li> <li>インストールしている製品の応答ファイルを 生成するには、「応答ファイルを生成する」</li> <li>チェック・ボックスをクリックします。応答 ファイルには、製品のインストールに必要な 情報が格納されます。応答ファイルは、製品 の無人インストールのため、または GUI モードでインストーラーを再実行する時に応答 欄に設定値をあらかじめ入力しておくために 使用できます。</li> <li>「選択」をクリックして、応答ファイルの格 納先の場所を参照します。</li> <li>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに</li> </ul>

表 11. IBM EMM インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
IBM EMM 製品	「インストール・セット」リストで、「カス タム」を選択してインストールする製品を選 択します。
	「 <b>インストール・セット</b> 」領域に、コンピュ ーター上の同じディレクトリーにインストー ラーが存在するすべての製品が表示されま す。
	「説明」フィールドに、「インストール・セ ット」領域で選択した製品の説明が表示され ます。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
インストール・ディレクトリー	「インストール・ディレクトリーを指定して ください」フィールドで「選択」をクリック して、製品のインストール先のディレクトリ ーを参照します。
	インストーラーが格納されているフォルダー に製品をインストールする場合は、「デフォ ルトのフォルダーに戻す」をクリックしま す。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
アプリケーション・サーバーの選択	Campaign のインストール済み環境に対して 構成したアプリケーション・サーバーを、以 下の中から選択します。
	<ul><li>IBM WebSphere</li><li>Oracle WebLogic</li></ul>
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
Platform データベースのタイプ	該当する Marketing Platform データベース・ タイプを選択します。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。

表 11. IBM E	EMM インス	トーラーの	GUI (続き)
-------------	---------	-------	----------

ウィンドウ	説明
Platform データベース接続	使用するデータベースに関する以下の情報を
	入力します。
	• データベース・ホスト名
	• データベース・ポート
	• データベース名またはシステム ID (SID)
	<ul> <li>データベースのユーザー名</li> </ul>
	・ データベースのパスワード
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに
	進みます。
Platform データベース接続 (続き)	JDBC 接続を確認して、確定します。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに
	進みます。必要であれば、追加のパラメータ
	ーを使用して URL をカスタマイズできま
	す。
プリインストールの要約	インストール・プロセス中に追加した値を確
	認して、確定します。
	「 <b>インストール</b> 」をクリックして、インスト
	ール・プロセスを開始します。
	Campaign インストーラーが開きます。

- 4. Marketing Platform インストーラーの指示に従って、Marketing Platform をイン ストールまたはアップグレードします。詳しくは、「*IBM EMM Marketing Platform インストール・ガイド*」を参照してください。
- 5. 「インストール完了」ウィンドウで、「完了」をクリックします。 Marketing Platform のインストールが完了し、Campaign インストーラーが開きます。
- 以下の表に記載された情報を使用して、Campaign インストーラーをナビゲート します。「Platform データベース接続」ウィンドウでは、必要なすべての情報を 入力して、「次へ」をクリックします。Campaign インストーラーが開始しま す。

表 12.	IBM	Campaign	1	ンス	トー	ラー	-の	GUI
-------	-----	----------	---	----	----	----	----	-----

ウィンドウ	説明
概要	これは、Campaign インストーラーの最初の ウィンドウです。このウィンドウから Campaign のインストール・ガイドとアップ グレード・ガイドを開くことができます。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
ソフトウェアのご使用条件	この使用条件をよくお読みください。ご使用 条件を印刷するには、「 <b>印刷</b> 」を使用しま す。ご使用条件に同意した後、「次へ」をク リックします。

ウィンドウ	説明
インストール・ディレクトリー	「 <b>選択</b> 」をクリックして、Campaign のイン ストール先のディレクトリーを参照します。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
Campaign コンポーネント	インストールするコンポーネントを選択しま す。
	コンポーネントを選択すると、そのコンポー ネントに関する情報がインストーラーに表示 されます。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
デフォルト・ロケール	インストール済み環境のデフォルト・ロケー ルを選択します。デフォルトでは英語が選択 されます。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
Campaign データベース・セットアップ	Campaign データベースをセットアップする ためのオプションとして、以下のいずれかを 選択します。
	<ul> <li>         ・         自動データベース・セットアップ     </li> </ul>
	• 手動データベース・セットアップ
	「自動データベース・セットアップ」を選択 した場合、システム・テーブルが Unicode 用 に構成されるときは、「Unicode SQL スク リプトの実行」を選択します。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
Campaign データベース・タイプ	該当するデータベース・タイプを選択しま す。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。

表 12. IBM Campaign インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
Campaign データベース接続	Campaign データベースに関する以下の詳細 を入力します
	<ul> <li>データベース・ホストタ</li> </ul>
	<ul> <li>・データベース・ポート</li> </ul>
	<ul> <li>データベースのシステム ID (SID)</li> </ul>
	<ul> <li>データベースのユーザー名</li> </ul>
	・ パスワード
	<b>重要: IBM EMM</b> 製品が分散環境にインスト ールされている場合、スイートに属するすべ てのアプリケーションのナビゲーション URL では IP アドレスではなく、マシン名を 使用する必要があります。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
JDBC 接続	JDBC 接続を確認して、確定します。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
Campaign 接続の設定	以下の接続設定を入力します。
	<ul> <li>ネットワーク・ドメイン・ネーム</li> <li>注:ネットワークのドメイン・ネームを追加する時に、次のようなメッセージが表示 されることがあります。</li> </ul>
	Warning-Server name includes domain name, final URL contains several occurrences of domain name
	「 <b>変更</b> 」を選択してドメイン・ネームを変 更するか、「 <b>キャンセル</b> 」をクリックして メッセージを取り消してください。
	<ul> <li>・ ホスト名</li> </ul>
	<ul> <li>・ ポート番号</li> </ul>
	必要であれば、「 <b>セキュア接続の使用</b> 」チェ ック・ボックスを選択します。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。

表 12. IBM Campaign インストーラーの GUI (続き)
表 12. IBM Cam	paign インス	トーラーの	GUI (続き)
---------------	-----------	-------	----------

説明
Marketing Platform データベースに接続する ための以下の情報を確認し、確定するか変更 します。
・ JDBC ドライバー・クラス
・ JDBC 接続 URL
・ JDBC ドライバー・クラスパス
「 <b>次へ</b> 」をクリックして、入力した内容を検 証し、次のウィンドウに進みます。
インストール・プロセス中に追加した値を確 認して、確定します。
「 <b>インストール</b> 」をクリックして、インスト ール・プロセスを開始します。
Campaign インストーラーが開きます。
「完了」をクリックして Marketing Platform インストーラーを閉じ、IBM EMM インスト ーラーに戻ります。

- 7. 「インストール完了」ウィンドウで「完了」をクリックして Campaign インスト ーラーを終了し、EMM インストーラーに戻ります。
- 8. EMM インストーラーの指示に従って、Campaign のインストールを完了しま す。 以下の表に記載された情報を使用して、EMM インストーラーの各ウィン ドウで適切な操作を実行してください。

表 13. EMM インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明
デプロイメント EAR ファイル	IBM EMM 製品をデプロイするためのエンタ ープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルを 作成するかどうかを指定します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
EAR ファイルのパッケージ化	このウィンドウは、「デプロイメント EAR ファイル」ウィンドウで「 <b>デプロイメントの</b> ために EAR ファイルを作成します」を選択 した場合に表示されます。 EAR ファイルにパッケージ化するアプリケ ーションを選択します。
EAR ファイルの詳細	<ul> <li>EAR ファイルに関する以下の情報を入力します。</li> <li>エンタープライズ・アプリケーション ID</li> <li>表示名</li> <li>説明</li> <li>EAR ファイルのパス</li> </ul>

表 13. EMM インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
EAR ファイルの詳細 (続き)	追加の EAR ファイルを作成するかどうかに ついて、「はい」または「いいえ」を選択し ます。「はい」を選択した場合は、新しい EAR ファイルの詳細を入力する必要があり ます。
	「 <b>次へ</b> 」をクリックして、製品のインストー ルを完了します。
デプロイメント EAR ファイル	IBM EMM 製品をデプロイするための別の EAR ファイルを作成するかどうかを指定し ます。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに 進みます。
インストール完了	このウィンドウには、インストール中に作成 されるログ・ファイルの場所が表示されま す。 インストールの詳細を変更する場合は、「 <b>前</b>
	へ」をクリックします。 「完了」をクリックして、IBM EMM インス トーラーを閉じます。

## インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成する

IBM EMM 製品をインストールした後に EAR ファイルを作成します。異なる製品の組み合わせを EAR ファイルに含めるために、これを行うことができます。

注: コマンド・ラインから、コンソール・モードでインストーラーを実行します。

IBM EMM 製品のインストール後に EAR ファイルを作成する場合には、以下の手順に従います。

コンソール・モードでインストーラーを初めて実行する場合は、インストールされる製品ごとにインストーラーの.properties ファイルのバックアップ・コピーを作成します。

IBM 製品インストーラーはそれぞれ、.properties 拡張子が付いた 1 つ以上の 応答ファイルを作成します。これらのファイルは、インストーラーが格納されて いるのと同じディレクトリーに入っています。

installer\_productversion.properties ファイルおよび IBM インストーラー自体のためのファイルである installer.properties など、.properties 拡張子が付いたすべてのファイルを確実にバックアップしてください。

不在モードでインストーラーを実行する予定の場合は、元の .properties ファ イルをバックアップする必要があります。これは、不在モードでインストーラー を実行するとこれらのファイルが消去されるためです。 EAR ファイルを作成す るには、インストーラーが初期インストールの際に .properties ファイルに書 き込むための情報が必要です。

- コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーを、インストーラーが入っている ディレクトリーに変更します。
- 3. インストーラーの実行可能ファイルに次のオプションを指定して実行します。

-DUNICA GOTO CREATEEARFILE=TRUE

UNIX タイプのシステムでは、.sh ファイルではなく .bin ファイルを実行します。

インストーラー・ウィザードが実行されます。

- 4. ウィザードの指示に従ってください。
- 追加の EAR ファイルを作成する前に、初めてコンソール・モードで実行する前 に作成したバックアップを使って (1 つまたは複数の).properties ファイルを 上書きしてください。

## コンソール・モードを使用した Campaign のインストール

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Campaign をインストールするには、コ ンソール・モードを使用します。コマンド・ライン・ウィンドウでは、各種オプシ ョンを選択して、インストールする製品の選択や、インストール用のホーム・ディ レクトリーの選択などのタスクを実行できます。

Campaign をインストールする前に、必ず以下の要素を構成しておいてください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース・スキーマ

コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エン コードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。 ANSI などそ の他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が 読み取れなくなります。

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して以下のアクションを実行し、Campaign を インストールします。

- 1. コマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウを開いて、IBM EMM インストーラ ーと、Campaign インストーラーを保存したディレクトリーにナビゲートしま す。
- 2. 以下のアクションのいずれか 1 つを実行します。
  - Windows の場合、次のコマンドを入力します。

ibm\_emm\_installer\_full\_name -i console

例: IBM\_EMM\_Installer\_9.1.0.0 -i console

• Unix の場合、ibm emm installer full name.sh ファイルを呼び出します。

#### 例: IBM\_EMM\_Installer\_9.1.0.0.sh

 コマンド・ライン・プロンプトに表示される指示に従ってください。コマンド・ ライン・プロンプトでオプションを選択しなければならないときは、以下のガイ ドラインを使用します。

- デフォルト・オプションはシンボル [X] で定義されます。
- オプションを選択またはクリアするには、そのオプションに定義されている番号を入力して、Enterキーを押します。

例えば、インストール可能なコンポーネントが以下のリストに表示されていると 想定します。

- 1 [X] Marketing Platform
- 2 [X] Campaign
- 3 Contact Optimization
- 4 Interaction History

Interaction History をインストールし、Campaign をインストールしない場合、コマンド 2,4 を入力します。

すると、選択したオプションが以下のリストのように表示されます。

- 1 [X] Marketing Platform
- 2 Campaign
- 3 Contact Optimization
- 4 [X] Interaction History

注: Marketing Platform のオプションは、既にインストール済みである場合を除いて、クリアしないでください。

- IBM EMM インストーラーは、インストール・プロセスの間に、Campaign イン ストーラーを起動します。 Campaign インストーラーのコマンド・ライン・プロ ンプト・ウィンドウの指示に従ってください
- Campaign インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウで quit を入力すると、ウィンドウはシャットダウンします。 IBM EMM インストーラ ーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウの指示に従って、Campaign の インストールを完了します。

**注:** インストールの間にエラーが発生した場合、ログ・ファイルが生成されま す。このログ・ファイルを表示するには、インストーラーを終了する必要があり ます。

## Campaign のサイレント・インストール

Campaign を複数回インストールするには、無人モード (サイレント・モード) を使用します。

Campaign をインストールする前に、必ず以下の要素を構成しておいてください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース・スキーマ

サイレント・モードを使用して Campaign をインストールするときには、インスト ール中に必要な情報を取得するために応答ファイルが使用されます。製品をサイレ ント・インストールするには、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファ イルは、以下のいずれかの方法によって作成できます。

- 応答ファイル作成時のテンプレートとして、サンプル応答ファイルを使用します。サンプル応答ファイルは、ご使用の製品インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。サンプル応答ファイルについて詳しくは、『サンプル応答ファイル』を参照してください。
- 製品をサイレント・モードでインストールするには、その前に、GUI (Windows) モード、X Window System (UNIX) モード、またはコンソール・モードで製品イ ンストーラーを実行します。IBM EMM スイート・インストーラー用の応答ファ イルが 1 つ、製品インストーラー用の応答ファイルが 1 つ以上作成されます。 ファイルは、ユーザーの指定したディレクトリー内に作成されます。

重要: セキュリティー上の理由から、インストーラーはデータベース・パスワードを応答ファイルに保存しません。応答ファイルを作成するときは、各応答ファイルを編集してデータベース・パスワードを入力する必要があります。各応答ファイルを開いて PASSWORD を検索し、この応答ファイルの編集を行う必要のある場所を見つけます。

サイレント・モードで実行するとき、インストーラーは順番に以下のディレクトリ ーで応答ファイルを探します。

- IBM EMM インストーラーが保存されているディレクトリー内。
- 製品をインストールするユーザーのホーム・ディレクトリー内。

すべての応答ファイルを、必ず同じディレクトリーに入れてください。応答ファイ ルの読み取りが行われる場所のパスは、コマンド・ラインに引数を追加することで 変更できます。例: -DUNICA\_REPLAY\_READ\_DIR="myDirPath" -f myDirPath/ installer.properties

Windows の場合は、次のコマンドを使用します。

• IBM\_EMM\_installer\_full\_name -i silent

以下に例を示します。

**IBM\_EMM\_Installer\_9.1.0.0\_win.exe -i silent** UNIX または Linux の場合は、次のコマンドを使用します。

IBM\_EMM\_installer\_full\_name\_opertating\_system.bin -i silent

以下に例を示します。

IBM\_EMM\_Installer\_9.1.0\_unix.bin -i silent

#### サンプル応答ファイル

Campaign のサイレント・インストールをセットアップするため、応答ファイルを作 成する必要があります。応答ファイルを作成する際には、サンプル応答ファイルを 利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮ア ーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表14. サンプル応答ファイルの説明

サンプル応答ファイル	説明
installer.properties	IBM EMM マスター・インストーラーのサン プル応答ファイル。
installer_product intials and product version number.properties	Campaign マスター・インストーラーのサン プル応答ファイル。 例えば、installer_ucn.n.n.n.properties (ここで、n.n.n.n はバージョン番号) は、 Campaign インストーラーの応答ファイルで す。
installer_report pack initials, product initials, and version number.properties	レポート・パック・インストーラーのサンプ ル応答ファイル。 例えば、installer_urpc.properties は、 Campaign レポート・パック・インストーラ ーの応答ファイルです。

## 第5章 配置前の Campaign の構成

Campaign を配置する前に、Campaign および eMessage のシステム・テーブルを作成してデータを設定し、Campaign および eMessage を手動で登録する必要があります。

# 手動での Campaign システム・テーブルの作成とデータ設定

デフォルトでは、Campaign インストーラーがシステム・テーブルを自動的に作成し てデータを設定します。しかし、インストール中に自動的にシステム・テーブルが 作成されてデータが設定されることがなかった場合には、システム・テーブルに手 動でデータを設定する必要があります。データベース・クライアントを使用して Campaign SQL スクリプトを該当するデータベースに対して実行することにより、 Campaign システム・テーブルを作成してデータを設定します。

注: eMessage を使用可能にすることを計画している場合は、eMessage システム・テ ーブルを手動で作成してデータを追加することも必要です (インストーラーによっ て自動的に行われなかった場合)。詳しくは、40ページの『手動での eMessage シス テム・テーブルの作成とデータ設定』を参照してください。

インストール時に「Campaign コンポーネント (Campaign Components)」ページで 「Campaign システム表 DDL ファイル」オプションを選択した場合、IBM インス トーラーは、Campaign システム・テーブルを作成してデータを追加するために使用 できる一連の SQL スクリプトをインストールします。これらの SQL スクリプト は、Campaign サーバーのインストール済み環境の下の ddl ディレクトリーにイン ストールされます。システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されてい る場合は、Campaign インストール済み環境の下の ddl/unicode ディレクトリー に、該当するスクリプトがあります。

SQL スクリプトを使用するには、データベース・クライアントを実行して、 Campaign システム・テーブルを格納するデータベースまたはスキーマにスクリプト を適用します。 SQL スクリプトの実行方法については、ご使用のデータベース・ ソフトウェアの資料を参照してください。

以下の表に、手動で Campaign システム・テーブルを作成してデータを追加するために提供されている SQL スクリプトをリストします。

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ac_systab_db2.sql
Microsoft SQL	ac_systab_sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ac_systab_ora.sql

表 15. Campaign システム・テーブルを作成するスクリプト

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ac_populate_tables_ db2.sql
Microsoft SQL	ac_populate_tables_ sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ac_populate_tables_ ora.sql

表 16. Campaign システム・テーブルにデータを追加するスクリプト

## 手動での eMessage システム・テーブルの作成とデータ設定

eMessage の場合、Campaign スキーマに追加のシステム・テーブルを作成し、これ らのテーブルに初期データを設定する必要があります。システム・テーブルを自動 的に作成するオプションを選択すると、Campaign インストーラーは、Campaign ス キーマで eMessage システム・テーブルを自動的に作成し、データを追加します。 ただし、そのオプションを選択しない場合は、eMessage システム・テーブルを手動 で作成してデータを追加する必要があります。

データベース・クライアントを使用して、Campaign データベースに対して適切なス クリプトを実行します。

注: eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内のサ ブフォルダーです。

#### eMessage テーブルを作成するスクリプト

IBM では、ローカル環境に eMessage テーブルを作成する ace\_op\_systab スクリ プトを提供しています。

Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されている場合 は、eMessage インストール済み環境の dd1/unicode ディレクトリーにある適切な スクリプトを見つけます。

Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されていない場合 は、eMessage インストール済み環境の ddl ディレクトリーにある非 Unicode 用の スクリプトを使用します。使用する必要のあるスクリプトを調べるには、次の表を ご利用ください。

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ace_op_systab_db2.sql
	システム・テーブルが置かれるユーザー・テーブル・スペースおよびシ ステム一時テーブル・スペースには、それぞれ 16K 以上のページ・サ イズが必要です。
Microsoft SQL	ace_op_systab_sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ace_op_systab_ora.sql

表 17. eMessage テーブルを作成するスクリプト

#### eMessage テーブルにデータを追加するスクリプト

IBM では、ローカル環境で eMessage テーブルにデータを追加する ace op populate systab スクリプトを提供しています。

データ追加用スクリプトは、eMessage インストール済み環境の ddl ディレクトリーに格納されています。 IBM で用意しているデータ追加用スクリプトのバージョンは 1 つだけです。これらのスクリプトは、Unicode テーブルまたは非 Unicode テーブルのいずれにも使用できます。

注: eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内のサ ブフォルダーです。

使用する必要のあるスクリプトを調べるには、次の表をご利用ください。

表 18. eMessage テーブルにデータを追加するスクリプト

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ace_op_populate_systab_db2.sql
Microsoft SQL	ace_op_populate_systab_sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ace_op_populate_systab_ora.sql

#### 手動での Campaign の登録

インストール・プロセス中に Campaign インストーラーが Marketing Platform シス テム・テーブルにアクセスできなかった場合は、configTool ユーティリティーを実 行して手動で登録する必要があります。

**configTool** ユーティリティーおよび **populateDb** ユーティリティーを使用すると、 Campaign の情報を Marketing Platform システム・テーブルにインポートして取り込 むことができます。

1. 以下のコマンド例をガイドラインとして使用して、populateDb ユーティリティ ーを実行します。

populateDb.bat -n Campaign

このコマンドにより、セキュリティーの役割と権限がデフォルト・パーティションにインポートされます。

2. Campaign をアップグレードする場合、以下のコマンドを使用して Campaign を 登録抹消します。

configTool -x -p "Affinium|Campaign|about" -f exportedAbout.xml

このコマンドにより、Campaign の「**バージョン情報**」ノードが exportedAbout.xml ファイルにエクスポートされます。

3. 以下のコマンド例をガイドラインとして使用して、configTool ユーティリティ ーを実行します。

- configTool -r Campaign -f
   "full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥
   campaign\_configuration.xml"
- configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu" -f "full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥ campaign\_setup\_navigation.xml"
- configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f "full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥ campaign\_navigation.xml"
- configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Analytics" -f "full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥ campaign\_analysis\_navigation.xml"
- configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|alerts" -f "full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥ campaign\_alerts.xml"

これらのコマンドにより、構成プロパティーとメニュー項目がインポートされま す。存在するファイル数と同じ回数、このユーティリティーを実行する必要があ ります。

4. Campaign を登録した後、次のコマンドを実行します。

configtool -i -p "Affinium Campaign" -f exportedAbout.xml

このコマンドにより、Campaign の「**バージョン情報**」ノードが exportedAbout.xml ファイルにインポートされます。

## 手動での eMessage の登録

インストール・プロセス中に eMessage インストーラーが Marketing Platform シス テム・テーブルにアクセスできなかった場合は、configTool ユーティリティーを実 行して手動で登録する必要があります。

デフォルトでは、Campaign インストーラーは eMessage を Marketing Platform シス テム・テーブルに自動的に登録します。ただし、eMessage は使用可能化されませ ん。場合によっては、Campaign インストーラーが自動的に eMessage を登録する際 に Marketing Platform システム・テーブルに接続しない場合があります。

インストーラーによって eMessage が自動的に登録されない場合は、IBM EMM イ ンストール済み環境に含まれる configTool ユーティリティーを使って eMessage を手動で登録する必要があります。 configTool ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにあります。

eMessage を手動で登録するには、次のコマンドを使用して configTool ユーティリ ティーを実行します。

configTool -r eMessage -f "full\_path\_to\_eMessage\_installation\_directory
¥conf¥emessage\_configuration.xml"

eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign インストール・ディレクト リーのサブディレクトリーです。 eMessage の登録および構成について詳しくは、「*IBM eMessage 起動および管理者* ガイド」を参照してください。

# Campaign 始動スクリプトにおけるデータ・ソース変数の設定 (UNIX のみ)

データ・ソース変数は、Campaign のインストール中にインストーラーによって自動 的に設定されます。これらの設定値は、setenv.sh ファイルの中で変更できます。 setenv.sh ファイルを変更した場合は、毎回、サーバーを再始動する必要がありま す。

Campaign のインストール中に、IBM インストーラーはデータベース情報を収集 し、その情報を使用して、Campaign システム・テーブルの作成と使用に必要なデー タベースおよび環境変数を自動的に構成します。それらの設定は、Campaign サーバ ー・インストール済み環境下の bin ディレクトリー内にある setenv.sh ファイル に格納されます。

システム・テーブルと同じタイプのデータベースを使用しないデータ・ソース (Campaign 顧客テーブルなど) に対するアクセスについては、『データベース環境変 数およびライブラリー環境変数』に記載されているデータベース環境変数とライブ ラリー環境変数を追加するために setenv.sh ファイルを手動で構成する必要があり ます。

なお、Campaign サーバーが既に実行中のときにこのファイルを変更する場合は、同 サーバーを再始動した後でないと setenv ファイルの変更が認識されない点に注意し てください。詳しくは、52ページの『Campaign サーバーの始動』を参照してくだ さい。

setenv ファイルに追加する必要のある情報については、Distributed Marketing データ ベース情報ワークシートを参照してください。

#### データベース環境変数およびライブラリー環境変数

データベース (インストール時に「手動データベース・セットアップ」を選択した 場合は、顧客テーブルとシステム・テーブル) およびオペレーティング・システム に必要なデータベース環境変数とライブラリーの環境変数を設定します。データベ ース変数とライブラリー変数は、setenv.sh ファイルで設定できます。

次の表に、データベース名と、その構文および説明を記載します。

#### 表19. データベース環境変数

データベース	構文および説明
DB2	DB2DIR=full_dir_path
	export DB2DIR
	DB2 インストール・ディレクトリー (例: /usr/lpp/db2_06_01)。
	. full_path_to_db2profile
	DB2 ユーザーにデータベース構成を提供 (例: /home/db2inst1/sqllib/
	db2profile)。
	「.」(ピリオドの後にスペース) に注意。
Netezza	NZ_ODBC_INI_PATH=full_dir_path
	export NZ_ODBC_INI_PATH
	odbci.ini ファイルのディレクトリーの場所
	(例えば、/opt/odbc64v51)
	ODBCINI=full_path_and_file_name
	export ODBCINI
	odbc.ini ファイルへの絶対パス
Oracle	ORACLE_BASE=full_dir_path
	export ORACLE_BASE
	Oracle インストール・ディレクトリー
	ORACLE_HOME=full_dir_path
	export ORACLE_HOME
	Oracle のホーム・ディレクトリー (例えば、/home/oracle/OraHome1)
Teradata	ODBCINI=full_path_and_file_name
	export ODBCINI
	obdc.ini ファイルへの絶対パス

ライブラリー環境変数は、次の表に記載されているとおり、UNIX オペレーティング・システムの種類に応じて定義します。

表 20. ライブラリー環境変数

オペレーティン	
グ・システム	值
SunOS および	LD_LIBRARY_PATH
Linux	以下に例を示します。
	LD_LIBRARY_PATH= <campaign_home>/bin:<db lib="" td="" ディレクトリーへのパ<=""></db></campaign_home>
	ス>:\$LD_LIBRARY_PATH
	export LD_LIBRARY_PATH <b>注: LD LIBRARY PATH 64 (64 ビット・リンク用) が設定されている場</b>
	合、削除してください。LD_LIBRARY_PATH_64 の設定時は、 LD_LIBRARY_PATH 変数が無視されます。
AIX®	LIBPATH
	例: LIBPATH= <campaign_home>/bin:<db lib="" ディレクトリーへのパス<br="">&gt;:/usr/lib:\$ORACLE_HOME/lib32:\$ORACLE_HOME/lib</db></campaign_home>
HP-UX	SHLIB_PATH
	例: SHLIB_PATH= <campaign_home>/bin:<db lib="" ディレクトリーへのパス<br="">&gt;:/usr/lib:\$ORACLE_HOME/lib32:\$ORACLE_HOME/lib</db></campaign_home>

## Oracle データベースのライブラリー・ディレクトリー

Oracle のバージョンに応じて、1ib ディレクトリーの命名規則が異なります。比較 的古いバージョンの場合、32 ビットでは 1ib、64 ビットでは 1ib64 を使用しま す。比較的新しいバージョンの場合、32 ビットでは 1ib32、64 ビットでは 1ib を 使用します。

32 ビットの Campaign をインストールする場合、\$ORACLE\_HOME/lib32 または \$ORACLE\_HOME/lib のいずれか一方、つまり 32 ビットの Oracle ライブラリーが入 っているものを含めてください。

64 ビットの Campaign をインストールする場合、\$ORACLE\_HOME/lib または \$ORACLE\_HOME/lib64 のいずれか一方、つまり 64 ビットの Oracle ライブラリーが 入っているものを含めてください。

注: 32 ビットと 64 ビットの両方のライブラリーへのパスを含めないでください。 ご使用の Campaign のバージョンに合わせて使用するライブラリーへのパスのみを 含めてください。

# 第 6 章 Campaign Web アプリケーションの配置

Campaign Web アプリケーションを配置するには、EAR ファイルを使用するか、個々の WAR ファイルを配置します。

Campaign を配置するには、このセクションのガイドラインに従ってから、Campaign サーバーを始動してください。

IBM インストーラーを実行したときに、Campaign を EAR ファイルに含めたか、 または Campaign WAR ファイルを配置するように選択した可能性があります。 Marketing Platform または他の製品を EAR ファイルに含めた場合、EAR ファイル に含めた製品の個々のインストール・ガイドに詳しく示されている、配置ガイドラ インのすべてに従う必要があります。

Web アプリケーション・サーバーの操作方法を知っている必要があります。管理コンソール内の移動などに関する詳細は、Web アプリケーション・サーバーの文書を参照してください。

## Web アプリケーションのセッション・タイムアウトの設定

非アクティブの HTTP セッションがオープン状態を維持できる時間の長さは、セッ ション・タイムアウトによって決まり、その後、セッションは期限切れになりま す。必要であれば、WebSphere コンソールまたは WebLogic コンソールを使用して セッション・タイムアウトの値 (秒または分) を調整することにより、Campaign に 対する Web アプリケーションのセッション・タイムアウトを設定できます。

Web アプリケーション・サーバーにセッション・タイムアウトを設定するには、次のようにします。

- WebSphere: IBM WebSphere Application Server 管理コンソールを使用して、セッション・タイムアウトを分単位で設定します。この設定は、サーバーおよびエンタープライズ・アプリケーション・レベルで調整できます。詳しくは、WebSphereの資料を参照してください。
- WebLogic: WebLogic コンソールを使用して、セッション・タイムアウトを秒単 位で設定するか、weblogic.xml ファイル内で session-descriptor 要素の TimeoutSecs パラメーター値を調整します。

#### WebSphere Application Server への Campaign の配置

サポートされているバージョンの WebSphere Application Server (WAS) 上に、WAR ファイルまたは EAR ファイルから Campaign ランタイム環境を配置できます。

注: WAS で複数言語エンコードが有効になっていることを確認してください。

## WAR ファイルから WAS への Campaign の配置

WAR ファイルから WAS に Campaign アプリケーションを配置することができます。

Campaign を配置する前に、以下のタスクを実行してください。

- ご使用のWebSphereのバージョンが、必要なフィックスパックまたはアップグレードも含めて、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」の資料に記載された要件を満たしていることを確認します。
- WebSphere でデータ・ソースとデータベース・プロバイダーを作成したことを確認します。

Campaign アプリケーションの WAR ファイルを WAS に配置するには、以下の手順を実行します。

- 1. WebSphere Integrated Solutions Console に移動します。
- 2. システム・テーブルが DB2 にある場合は、以下の手順に従います。
  - a. 作成したデータ・ソースをクリックします。データ・ソースのカスタム・プ ロパティーに移動します。
  - b. 「カスタム・プロパティー」リンクを選択します。
  - c. 「resultSetHoldability」プロパティーの値を1 に設定します。

「resultSetHoldability」プロパティーが見つからない場合は、 「resultSetHoldability」プロパティーを作成してその値を1 に設定します。

- 3. 「アプリケーション」>「アプリケーション・タイプ」>「WebSphere エンター プライズ・アプリケーション」に移動し、「インストール」をクリックしま す。
- 「アプリケーション・インストールの準備」ウィンドウで、「詳細・すべての オプションとパラメーターを表示 (Detailed - Show all options and parameters)」チェック・ボックスを選択して、「次へ」をクリックします。
- 5. 「続行」をクリックして、「新規アプリケーションのインストール」ウィザー ドを表示します。
- 6. 「新規アプリケーションのインストール」ウィザードのウィンドウでは、以下 に挙げるウィンドウを除いて、デフォルト設定を受け入れます。
  - 「新規アプリケーションのインストール」ウィザードのステップ1では、
     「JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル」チェック・ボックスを選択します。
  - インストール・ウィザードのステップ3では、「JDK ソース・レベル」を 16に設定します。
  - インストール・ウィザードのステップ 8 では、「コンテキスト・ルート」を /Campaign に設定します。
- WebSphere Integrated Solutions Console の左側のナビゲーション・パネルで、 「アプリケーション」>「アプリケーション・タイプ」>「WebSphere エンター プライズ・アプリケーション」にナビゲートします。
- 8. 「エンタープライズ・アプリケーション」ウィンドウで、Campaign.war ファイ ルをクリックします。
- 9. 「Web モジュール・プロパティー」セクションで、「セッション管理」をクリ ックして、以下のチェック・ボックスを選択します。
  - 「セッション管理のオーバーライド」
  - 「Cookie を使用可能にする」

- 10. 「**Cookie を使用可能にする**」をクリックし、「**Cookie 名**」フィールドに固有 の Cookie 名を入力します。
- バージョン 8 の WebSphere Application Server を使用している場合は、「サー バー」>「WebSphere Application Server」>「サーバー 1」>「セッション管 理」>「Cookie を使用可能にする」を選択して、「セッション Cookie を HTTPOnly に設定して、クロスサイト・スクリプティング・アタックを阻止し ます」チェック・ボックスをクリアします。
- 12. サーバーの「**アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション**」セ クションで、配置した WAR ファイルを選択します。
- 13. 「詳細プロパティー」セクションで、「クラス・ロードおよび更新の検出」を 選択します。
- 14. 「クラス・ローダー順序」セクションで、「最初にローカル・クラス・ローダ ーをロードしたクラス (親は最後)」オプションを選択します。
- 「WAR クラス・ローダーのポリシー (WAR class loader policy)」で、「アプ リケーション用の単一のクラス・ローダー (Single class loader for application)」を選択します。
- 16. 配置を開始します。

#### EAR ファイルから WAS への Campaign の配置

Campaign が EAR ファイルに含まれたモジュールである場合、Campaign アプリケ ーションを WAS に配置できます。

IBM EMM インストーラーの実行時に Campaign を EAR ファイルに組み込んだ場 合は、EAR ファイルを使用して Campaign を配置できます。

Campaign を配置する前に、以下の点を確認してください。

- ご使用のWebSphereのバージョンが、必要なフィックスパックまたはアップグレードも含めて、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」の資料に記載された要件を満たしていることを確認します。
- WebSphere でデータ・ソースとデータベース・プロバイダーを作成したことを確認します。

Campaign を、EAR ファイルから WebSphere Application Server に配置するには、 以下の手順を実行します。

- 1. WebSphere Integrated Solutions Console に移動します。
- 2. システム・テーブルが DB2 にある場合は、作成したデータ・ソースをクリッ クします。データ・ソースのカスタム・プロパティーに移動します。.
- 3. 「カスタム・プロパティー」リンクを選択します。
- 4. 「resultSetHoldability」プロパティーの値を1 に設定します。

「resultSetHoldability」プロパティーが見つからない場合は、 「resultSetHoldability」プロパティーを作成してその値を1 に設定します。

5. 「アプリケーション」>「アプリケーション・タイプ」>「WebSphere エンター プライズ・アプリケーション」に移動し、「インストール」をクリックしま す。

- 「アプリケーション・インストールの準備」ウィンドウで、「詳細・すべての オプションとパラメーターを表示 (Detailed - Show all options and parameters)」チェック・ボックスを選択して、「次へ」をクリックします。
- 7. 「**続行**」をクリックして、「新規アプリケーションのインストール」ウィザー ドを表示します。
- 8. 「新規アプリケーションのインストール」ウィザードのウィンドウでは、以下 に挙げるウィンドウを除いて、デフォルト設定を受け入れます。
  - 「新規アプリケーションのインストール」ウィザードのステップ1では、
     「JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル」チェック・ボックスを選択します。
  - インストール・ウィザードのステップ3では、「JDK ソース・レベル」を 16に設定します。
  - インストール・ウィザードのステップ 8 では、「コンテキスト・ルート」を /Campaign に設定します。
- WebSphere Integrated Solutions Console の左側のナビゲーション・パネルで、 「アプリケーション」>「アプリケーション・タイプ」>「WebSphere エンター プライズ・アプリケーション」にナビゲートします。
- 10. 「エンタープライズ・アプリケーション」ウィンドウで、配置する EAR ファ イルを選択します。
- 11. 「Web モジュール・プロパティー」セクションで、「セッション管理」をクリ ックして、以下のチェック・ボックスを選択します。
  - 「セッション管理のオーバーライド」
  - 「Cookie を使用可能にする」
- 12. 「**Cookie を使用可能にする**」をクリックし、「**Cookie 名**」フィールドに固有 の Cookie 名を入力します。
- バージョン 8 の WebSphere Application Server を使用している場合は、「サー バー」>「WebSphere Application Server」>「サーバー 1」>「セッション管 理」>「Cookie を使用可能にする」を選択して、「セッション Cookie を HTTPOnly に設定して、クロスサイト・スクリプティング・アタックを阻止し ます」チェック・ボックスをクリアします。
- 14. 「詳細プロパティー」セクションで、「クラス・ロードおよび更新の検出」を 選択します。
- 15. 「クラス・ローダー順序」セクションで、「最初にローカル・クラス・ローダ ーをロードしたクラス (親は最後)」オプションを選択します。
- 「WAR クラス・ローダーのポリシー (WAR class loader policy)」で、「アプ リケーション用の単一のクラス・ローダー (Single class loader for application)」を選択します。
- 17. 配置を開始します。

WebSphere Application Server バージョン 8 について詳しくは、Welcome to the WebSphere Application Server information center を参照してください。

## WebLogic への Campaign の配置

IBM EMM 製品を WebLogic に配置することができます。

Campaign を WebLogic に配置する場合は、以下のガイドラインを使用してください。

- IBM EMM 製品により、WebLogic で使用される JVM がカスタマイズされます。 JVM 関連のエラーが発生した場合に、IBM EMM 製品専用の WebLogic インスタンスを作成しなければならないことがあります。
- 始動スクリプト (startWebLogic.cmd) で JAVA\_VENDOR 変数を調べて、使用する WebLogic ドメイン用に選択された SDK が Sun SDK であることを確認します。 JAVA\_VENDOR=Sun に設定されている必要があります。 JAVA\_VENDOR=BEA に設定されている場合、JRockit が選択されています。 JRockit はサポートされていません。選択された SDK を変更するには、WebLogic の資料を参照してください。
- IBM EMM 製品を Web アプリケーション・モジュールとして配置します。
- UNIX システムの場合、グラフィカルなグラフを正常にレンダリングできるよう に、コンソールから WebLogic を始動する必要があります。コンソールは通常、 サーバーが稼働しているマシンにあります。しかし、Web アプリケーション・サ ーバーが別の仕方でセットアップされていることもあります。

コンソールがアクセス不能、または存在しない場合は、Exceed を使用してコンソ ールをエミュレートすることができます。ルート・ウィンドウ・モードまたはシ ングル・ウィンドウ・モードで UNIX マシンにローカル Xserver プロセスが接続 されるように Exceed を構成する必要があります。 Exceed を使用して Web ア プリケーション・サーバーを始動する場合は、バックグラウンドで Exceed を引 き続き実行させて、Web アプリケーション・サーバーが稼働し続けられるように してください。グラフのレンダリングで問題が発生した場合は、IBM テクニカ ル・サポートに連絡して詳細な指示を求めてください。

Telnet または SSH を介して UNIX マシンに接続すると、グラフのレンダリング で必ず問題が発生します。

- IIS プラグインを使用するように WebLogic を構成する場合は、WebLogic の資料 を調べてください。
- 実稼働環境で配置を行う場合、JVM メモリー・ヒープ・サイズ・パラメーターを 1024 に設定するために、setDomainEnv スクリプトに以下の行を追加してくださ い。Set MEM ARGS=-Xms1024m -Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m

WebLogic 11g の場合には、campaign.war ファイルで以下の変更を行います。

- 1. WL11g で AIX 7.1 も使用する場合は、アンパックした WEB\_INF/lib ディレク トリーから xercesImpl.jar ファイルを除去します。
- 2. campaign.war ファイルをビルドして、war ファイルを配置する前に加えた変更 を組み込みます。

#### レポートを表示するように WebLogic を構成する (UNIX)

Campaign を Contact Optimization と一緒に UNIX システムにインストールした場 合、WebLogic Web アプリケーション・サーバーが Contact Optimization レポート にグラフを表示できるようにするには、java.awt.headless JVM プロパティーを有 効にする必要があります。 WebLogic JVM で、最適化レポート内でのグラフ表示を使用可能にするには、以下 の手順に従います。

- 1. WebLogic サーバーが既に稼働中の場合は、シャットダウンします。
- 2. WebLogic サーバーの起動スクリプト (startWebLogic.sh) を見つけて、任意の テキスト・エディターで開きます。
- 3. JAVA\_OPTIONS パラメーターを変更して以下の値を追加します。

-Djava.awt.headless=true

4. 起動スクリプトを保存した後、WebLogic サーバーを再始動します。

## Campaign サーバーの始動

Campaign サーバーを始動する際には、Marketing Platform および Campaign Web ア プリケーションが配置され、稼働している必要があります。

Campaign サーバーは、直接始動するか、またはサービスとしてインストールすることができます。

### Campaign サーバーの直接始動

Campaign サーバーを始動するには、Windows の場合は cmpServer.bat ファイル を、UNIX の場合は rc.unica\_ac を実行します。 Campaign サーバーがデータの処 理と計算を行います。

ご使用のオペレーティング・システムに対応する指示に従ってください。

#### Windows

Campaign インストール済み環境の bin ディレクトリーにある cmpServer.bat ファ イルを実行することにより、Campaign サーバーを始動します。 unica\_aclsnr.exe プロセスが「Windows タスク マネージャ」の「プロセス」タブに表示されていれ ば、それはサーバーが正常に始動したことを示しています。

#### UNIX

start 引数を設定した rc.unica\_ac プログラムを実行することにより、Campaign サーバーを始動します。このコマンドは、root として実行する必要があります。以下に例を示します。

./rc.unica\_ac start

unica\_aclsnr プロセスが正常に開始したかどうかを判別するには、以下のコマンド を実行します。

ps -ef | grep unica\_aclsnr

始動したサーバーのプロセス ID を判別するには、Campaign インストール済み環境の conf ディレクトリーにある unica\_aclsnr.pid ファイルを確認します。

# Campaign サーバーを Windows サービスとしてインストールす る方法

Campaign サーバーを Windows サービスとしてインストールし、Windows が開始す るときにはいつでも自動的に開始されるようにします。 Campaign サーバーは、デ ータを計算して処理します。

Campaign サーバーを Windows サービスとしてインストールするには、以下の手順 を実行します。

1. Campaign インストール・ディレクトリーの下にある bin ディレクトリーを、ユ ーザー PATH 環境変数に追加します。ユーザーの PATH 環境変数がない場合に は、作成します。

このパスを、システム PATH 変数ではなく、必ずユーザー PATH 変数に追加する ようにしてください。

Campaign bin ディレクトリーがシステム PATH 環境変数にある場合には、それ を削除します。Campaign サーバーをサービスとしてインストールするには、そ のディレクトリーがシステム PATH 環境変数にある必要はありません。

- 2. サーバーがサービスとしてインストールされている旧バージョンの Campaign か らアップグレードする場合には、サービスを停止してください。
- 3. コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーを Campaign インストールの下の bin ディレクトリーに変更します。
- 次のコマンドを実行し、Campaign サーバー・サービスを作成します。 unica\_aclsnr -i

サービスが作成されます。

注: CAMPAIGN\_HOME がシステム環境変数として作成されたことを確認してから、 Campaign サーバー・サービスを開始します。

- 5. 「Unica Campaign リスナー・サービス」プロパティー・ダイアログ・ボックス を開きます。「**ログオン**」タブをクリックします。
- 6. 「このアカウント」を選択します。
- 7. ユーザー名 (システム・ユーザー) およびパスワードを入力して、サービスを開 始します。

# 第7章 配置後の Campaign の構成

Campaign を配置した後、Campaign リスナーが実行されていることを確認し、 Campaign のシステム・ユーザーをセットアップし、Campaign の構成プロパティー を設定し、Campaign のインストールを検査する必要があります。

IBM EMM のレポート機能を使用する場合は、「*IBM EMM Reports インストール* および構成ガイド」で説明されているタスクを完了する必要があります。

注: ホストされた E メールに対して IBM eMessage を使用可能にする予定である場 合、標準の eMessage パフォーマンス・レポートを表示するには、IBM EMM レポ ート作成機能を使用する必要があります。

## Campaign リスナーが稼働中であるかどうかの検査

ユーザーがどの Campaign 機能を操作する場合でも、その前に Campaign リスナー が稼働していなければなりません。リスナーは、ログインごとおよびアクティブ・ フローチャートごとに、別個の unica\_acsvr プロセスを自動で作成します。例え ば、あるユーザーがログインしてフローチャートを開くと、リスナーは unica\_acsvr.exe のインスタンスを 2 つ作成します。

Campaign リスナーが稼働していることを確認するには、以下の手順を使用します。 1. ご使用のオペレーティング・システムに応じた手順を使用してください。

Windows では、「Windows タスク マネージャー」の「プロセス」タブで、 unica\_aclsnr.exe を見つけます。

UNIX では、ps コマンド (例えば、ps -ef | grep unica\_aclsnr) を使用して、 Campaign サーバーを見つけます。

2. リスナーが稼働していない場合は、次のようにして再始動します。

Windows の場合は、Campaign インストール済み環境の bin ディレクトリーに ある、cmpServer.bat スクリプトを実行します。

UNIX の場合は、システム・プロンプトでコマンド rc.unica\_ac start を入力 します。

リスナーの自動始動など、リスナーの稼働に関する重要な詳細は、「IBM Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

## Campaign システム・ユーザーのセットアップ

データベースに直接アクセスするための Campaign システム・ユーザーをセットア ップします。 Campaign に複数のパーティションがある場合は、それぞれのパーテ ィションに対してシステム・ユーザーを作成してください。 システム・ユーザーとは、IBM EMM アプリケーションで使用するように構成された IBM ユーザー・アカウントです。

ユーザーにログイン資格情報を求めるプロンプトを繰り返し出さないようにするためには、システム・ユーザーを1つ以上のデータ・ソースに関連付けることができます。データ・ソースはそれぞれに、ユーザー名およびパスワードを指定します。 そのため、データ・ソースを参照することによって、データベースやその他の保護 リソースにアクセスするためのユーザー名およびパスワードを提供できます。複数 のデータ・ソースをシステム・ユーザー・アカウントの構成に追加することで、そのシステム・ユーザーが複数のデータベースにアクセスできるようにすることができます。

Campaign では、システム・ユーザーが、システム・テーブルやその他のデータ・ソ ースにアクセスするためのログイン資格情報を保有します。

既存または新規の IBM EMM ユーザー・アカウントを使用して、以下に説明するデ ータ・ソースに対する資格情報を保存します。

IBM EMM の 「**セットアップ」>「ユーザー**」領域で、IBM EMM ユーザーをセッ トアップして、ユーザーにデータ・ソースを割り当てます。その方法についての説 明は、オンライン・ヘルプの該当するセクションを参照してください。

以下のデータ・ソースに対する資格情報を保有するユーザー・アカウントをセット アップします。

- Campaign システム・テーブル (UA\_SYSTEM\_TABLES)
- ・ すべての顧客 (ユーザー) テーブル

UNIX では、システム・ユーザーの「代替ログイン」属性に、Campaign の UNIX ユーザーと特権を共有するグループに属するユーザーの UNIX アカウントを入力し ます。

注: 複数のパーティションがある場合は、パーティションごとに固有のシステム・ ユーザーが必要です。複数のパーティションで同じシステム・ユーザーを使用する ことはできません。

## 「構成」ページでのデータ・ソース・プロパティーの追加

適切なデータ・ソース・テンプレートを使用して、Campaign のそれぞれのデータ・ ソースの「構成」ページにデータ・ソース・プロパティーを追加します。

IBM インストーラーを実行すると、Campaign インストーラーは Marketing Platform データベースに指定されたデータベース・タイプに応じたテンプレートをインポー トします。

追加のデータベース・タイプに他のデータ・ソース・テンプレートが必要な場合 は、Marketing Platform configTool ユーティリティーを使用して、それらのテンプ レートを手動でインポートする必要があります。使用するデータベースの各タイプ に応じたテンプレートを、必要な数だけインポートできます。

例えば、Marketing Platform および Campaign のインストール済み環境で、以下のデ ータベースを使用しているとします。

- Oracle システム・テーブル
- DB2 顧客 (ユーザー) テーブル
- DB2 追加の顧客 (ユーザー) テーブル

この場合は、2 セットの顧客 (ユーザー) テーブルに対応した DB2Template.xml テ ンプレートをインポートする必要があります。

Marketing Platform システム・テーブルと Campaign システム・テーブルのデータベ ースが同じデータベース・タイプである場合、インストーラーは自動的に、これら のシステム・テーブルに使用するテンプレートをインポートします (この例では、 Oracle テンプレートをインポートします)。

手順については、『データ・ソース・テンプレートのインポート』を参照してくだ さい。

テンプレートから新しいカテゴリーを作成すると、新しいデータ・ソース構成プロ パティーのセットが作成されます。それぞれのタイプのデータ・ソースごとに、必 要なだけ新しいカテゴリーを作成します。上記の例では、Oracle テンプレートで 1 つの新規カテゴリーを作成し、DB2 テンプレートで 2 つの新規カテゴリーを作成 します。58 ページの『データ・ソース・テンプレートの複製』を参照してください。

データ・ソース・プロパティーを追加した後は、テンプレートから作成したカテゴ リーのデータ・ソース構成プロパティーを設定します。

手順については、 58 ページの『データ・ソースのプロパティー』を参照してください。

## データ・ソース・テンプレートのインポート

Campaign システム・テーブルのデータ・ソース (UA\_SYSTEM\_TABLES) は、 Oracle、DB2、および SQL Server でのみサポートされます。 Campaign システム・ テーブルをサポートしていないデータベース・タイプをサポートするには、 configTool ユーティリティーを使用してユーザー・テーブル用のデータ・ソース・ テンプレートをインポートします。

Campaign データ・ソース・テンプレートは、Campaign インストール済み環境の conf ディレクトリーにあります。

テンプレートをインポートおよびエクスポートするには、Marketing Platform configTool ユーティリティーを使用します。このユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにあります。 configTool について十分に理解していない場合は、このタスクを実行する方法の詳 細について、81ページの『configTool』を参照してください。

以下に、Oracle テンプレートをデフォルト・パーティション (Windows 環境) にインポートする場合に使用するコマンドの一例を示します。

configTool -i -p "Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f
full\_path\_to\_directory\_containing\_your\_Oracle\_template¥OracleTemplate.xml

## データ・ソース・テンプレートの複製

データ・ソース・カテゴリーに新しい構成プロパティーのセットを作成するには、 データ・ソース・テンプレートを複製します。

1. 「構成」ページで、複製するデータ・ソース・テンプレートにナビゲートします。

他のカテゴリーとは異なり、テンプレート・カテゴリーのラベルは斜体になって いて、括弧で囲まれています。

2. データ・ソース・テンプレートをクリックします。

「テンプレートからのカテゴリーの作成」ページが表示されます。

3. 「新しいカテゴリー名」フィールドに名前を入力します (必須)。

注: Campaign のシステム・テーブルのデータ・ソース・カテゴリー名は、 UA\_SYSTEM\_TABLES であることが必須です。

- 必要に応じて、新しいカテゴリーに含まれるプロパティーを編集します。また、 これを後で行うこともできます。
- 5. 「保存と終了」をクリックして、新規の構成を保存します。

新規カテゴリーがナビゲーション・ツリーに表示されます。

## Campaign 構成プロパティー

Campaign の基本インストールでは、「構成」ページで構成プロパティーを指定する 必要があります。また、「構成」ページを使用すると、重要な機能を実行するプロ パティーを指定し、オプションとしてそれらの機能を調整することができます。

#### データ・ソースのプロパティー

次の表に、それぞれの Campaign データ・ソースについて指定する必要のあるプロ パティーに関する情報を記載します。

表 21. それぞれの Campaign データ・ソースについてのプロパティー

プロパティー名	説明
ASMUserForDBCredentials	このプロパティーには、55ページの 『Campaign システム・ユーザーのセットア ップ』で Campaign システム・ユーザーとし て既に作成したユーザーを設定する必要があ ります。
DSN	SQL サーバーの場合、このプロパティーに は、作成した DSN (データ・ソース名) を設 定します。Oracle および DB2 の場合、この プロパティーにはデータベース名または SID (サービス) 名を設定します。
JndiName	このプロパティーには、アプリケーション・ サーバーに作成した、この特定のデータ・ソ ースに接続するための JNDI を設定します。

表 21. それぞれの Campaign データ・ソースについてのプロパティー (続き)

プロパティー名	説明
SystemTableSchema	SQL サーバーには不要です。他のデータ・ソ
	ースの場合、このプロパティーには、接続先
	とするデータベースのユーザーを設定しま
	す。
OwnerForTableDisplay	SQL サーバーには不要です。他のデータ・ソ
	ースの場合、このプロパティーには、接続先
	とするデータベースのユーザーを設定しま
	す。

データ・ソースは、Campaign システム・テーブル・データベース、および Campaign で使用する予定のすべての顧客 (ユーザー) データベースです。

注: Campaign のシステム・テーブルのデータ・ソース・カテゴリー名は、 UA SYSTEM TABLES でなければなりません。

値の設定について詳しくは、これらのプロパティーのコンテキスト・ヘルプを参照 するか、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

Campaign の基本インストールでは、データ・ソース・プロパティーを作成して設定 するだけでなく、「構成」ページで以下のプロパティーを設定する必要がありま す。

- Campaign > unicaACListener > serverHost
- Campaign > unicaACListener > serverPort
- デフォルト・パーティションには、Campaign > partitions > partition1 のカテ ゴリーに、必要に応じた値を設定します。

プロパティーを変更した場合は、その変更を有効にするために Campaign リスナー を再始動する必要があります。

# Campaign でのユーザー・テーブルのマッピング

ユーザー・テーブルのマッピングは、外部データ・ソースを Campaign で利用でき るようにするプロセスです。一般に、ユーザー・テーブルには、企業の顧客、見込 み顧客、あるいは製品に関する情報が格納されます。データベース表または ASCII フラット・ファイルをデータ・ソースとして使用できます。構成したデータ・ソー スのデータをフローチャート内のプロセスで利用できるようにするには、それらの データ・ソースをすべてマップする必要があります。

ユーザー・テーブルをマップする方法については、「*Campaign管理者ガイド*」を参照してください。

注: ユーザー・テーブルは、システム・テーブルとは異なります。大半の Campaign システム・テーブルは、システム・テーブル・データ・ソース名

UA\_SYSTEM\_TABLES が使用されていれば、初回のインストールと構成のときに自動的にマップされます。接続上の問題によりシステム・テーブルを手動でマップする必要がある場合は、Campaignからログアウトし、テーブルをマップしてから、再びログインしてください。

## Campaign インストールの検査

Campaign をインストールおよび構成するためのすべてのステップを実行し終えた ら、Campaign Web アプリケーションを配置して、それが終わった後に Campaign を構成します。これで、インストールを検査する準備が整います。

Campaign 管理者役割 (asm\_admin など) に既に存在するユーザーとして IBM EMM にログインします (まだこれを行っていない場合)。「**設定」>「ユーザー**」で、新規 ユーザーに少なくとも 1 つのセキュリティーの役割 (例えば、グローバル・ポリシ ー/管理) を割り当てます。新規ユーザーに役割を割り当てた後、その新規ユーザー として Campaign にログインできます。

インストール済み環境を確認するには、次の手順に従ってください。

- 1. IBM EMM にログインします。
- 2. 「設定」>「キャンペーン設定」>「テーブル・マッピングの管理」ウィンドウ で、すべてのシステム・テーブルがあることを確認します。
- 3. キャンペーンを作成し、そのキャンペーンにフローチャートを作成します。

## IBM EMM 製品との統合のためのプロパティーの設定

Campaign は、さまざまな IBM アプリケーションを統合します。必要であれば、 Campaign とその他の IBM 製品との統合をセットアップするための構成プロパティ ーを指定できます。

Campaign とその他の IBM 製品との統合に関する情報を記載している資料のリスト を表示するには、8ページの『IBM Campaign の資料のロードマップ』を参照して ください。

# 第8章 Campaign の複数パーティションの構成

Campaign 製品ファミリーでは、パーティションは、異なるユーザー・グループに関 連付けられているデータを保護する手段となります。 Campaign または関連する IBM EMM アプリケーションを複数のパーティションで作業するように構成する と、ユーザーには、各パーティションがアプリケーションの別々のインスタンスと して表示されます。同じコンピューター上にある別のパーティションの存在が示さ れることはありません。

## 複数パーティションの動作

IBM EMM アプリケーションを Campaign と一緒に操作する場合、アプリケーショ ンを構成できるのは、Campaign インスタンスが構成されているパーティションで す。各パーティション内のアプリケーション・ユーザーは、同じパーティション内 の Campaign 用に構成されている Campaign 機能、データ、顧客テーブルにアクセ スできます。

#### パーティションの利点

複数パーティションは、ユーザーのグループ間に強力なセキュリティーを設定する 場合に便利です。各パーティションには、独自の Campaign システム・テーブルの セットがあるためです。複数パーティションは、複数のユーザー・グループ間でデ ータを共有したい場合には使用できません。

各パーティションには、独自の構成設定があり、ユーザーのグループごとに Campaign をカスタマイズできます。ただし、すべてのパーティションは同じインス トール・バイナリーを共有します。すべてのパーティションで同じバイナリーを共 有していれば、複数パーティションのインストールやアップグレードに要する労力 を最小限にすることができます。

#### パーティションのユーザー割り当て

パーティションへのアクセスは、Marketing Platform グループのメンバーシップによって管理されます。

パーティションのスーパーユーザー (platform\_admin) を除き、各 IBM ユーザー は、1 つのパーティションに属することができます。複数のパーティションへのア クセスが必要なユーザーは、パーティションごとに個別の IBM ユーザー・アカウ ントが必要です。

Campaign パーティションが 1 つしかない場合、Campaign に対するアクセス権限を 持たせるために、ユーザーをそのパーティションに明示的に割り当てる必要はあり ません。

#### パーティションのデータ・アクセス

複数パーティション構成では、パーティションには次のようなセキュリティーの特 性があります。

- パーティションに割り当てられているグループのメンバー以外のユーザーは、そのパーティションにアクセスできない。
- あるパーティションのユーザーは、別のパーティションのデータを参照したり変 更したりすることができない。
- ユーザーは Campaign の参照ダイアログ・ボックスから、割り当てられているパ ーティションのルート・ディレクトリーより上の Campaign ファイル・システム にはナビゲートできない。例えば、partition1 および partition2 という名前の 2 つのパーティションがあり、ユーザーが partition1 に関連付けられたグループの メンバーである場合は、ダイアログ・ボックスから partition2 のディレクトリー 構造にはナビゲートできません。

## 複数のパーティションのセットアップ

Campaign に複数のパーティションを構成することにより、Campaign の異なるユー ザーのグループごとにデータを分離して保護することができます。各パーティショ ンはそれぞれ固有の構成プロパティーのセットを持つため、ユーザーのグループご とに Campaign をカスタマイズできます。

Campaign に追加のパーティションを構成する前に、構成するパーティションごとに 以下のタスクを実行します。

- 1. Campaign システム・テーブル用のデータベースまたはスキーマを作成します
- 2. ODBC 接続またはネイティブ接続を作成します
- 3. Web アプリケーション・サーバーに JDBC 接続を作成します

Campaign に複数のパーティションをセットアップするには、以下のタスクを実行します。

- システム・テーブル・データベース、およびパーティションに必要な他のすべて のデータ・ソースを作成します。その後、データ・ソースにアクセスするために 必要な JDBC および ODBC 接続またはネイティブ接続を構成します。
- パーティションごとに、システム・テーブルを格納するための異なるスキーマを データベースに作成します。 Campaign に同梱されているデータベース固有のス クリプトを使用して、システム・テーブルを作成してデータを設定します。
- 3. 追加のパーティションごとに、ディレクトリー構造を作成する以下のタスクを実 行します。

注: バックアップにする目的で、元の partition1 ディレクトリーのクリーン・コ ピーを保存してください。

- a. Campaign インストール済み環境の partitions ディレクトリーで、追加する パーティションごとに、すべてのサブディレクトリーが含まれるようにデフ ォルト partition1 ディレクトリーの複製を作成します。
- b. 各パーティション・ディレクトリーに一意の名前を付けます。後ほど「構成」ページでパーティションの構成ツリーを作成するときには、これらの名前と正確に同じ名前をパーティションに使用します。2番目のパーティションを作成するために Campaign/partitions/partition2 という名前のディレクトリーを作成した場合、「構成」ページで構成ツリーを作成するときに、名前「partition2」を使用してこのパーティションを識別しなければなりません。

- c. 複製パーティション・サブディレクトリー内に存在するすべてのファイルを 削除します。
- 4. -s オプションを指定した partitionTool ユーティリティーを使用してデフォ ルト・パーティションを複製するために、以下のタスクを実行します。

注: このオプションを使用しない場合は、この手順を実行する前に、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーを停止する必要があります。

- a. JAVA\_HOME 環境変数を、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプトに設定するか、または partitionTool ユーティリティーを実行するコマンド・ライン・ウィンドウ で設定します。
- b. コマンド・ライン・ウィンドウを開き、Marketing Platform インストール済み 環境の tools/bin ディレクトリーからユーティリティーを実行します。適切 なコマンドおよびオプション (「Marketing Platform 管理者ガイド」で説明) を使用して、目的の結果を達成します。 partitionTool -c -s partition1 -n partition2
- c. 作成する必要のある新しいパーティションごとに、この手順を繰り返しま す。
- d. 完了したら、Marketing Platform が配置されているアプリケーション・サーバ ーを停止して再始動し、作成されたグループを確認します。

注: このユーティリティーの使用方法について詳しくは、 89 ページの 『partitionTool』を参照してください。

- 5. 新規パーティションごとに New partitionTemplate を使用して「構成」ページ にパーティション構造を作成するために、以下のタスクを実行します。
  - a. 「構成」ページで、「**キャンペーン」>「パーティション**」にナビゲートし、 (partitionTemplate) をクリックします。

リストに (partitionTemplate) プロパティーが表示されていない場合には、 configTool ユーティリティーで以下のようなコマンドを使用して、パーティ ション・テンプレートをインポートしてください。

configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions"
 -f <CAMPAIGN HOME>/conf/partitionTemplate.xml

*CAMPAIGN\_HOME* は、Campaign インストール済み環境への実際のパスで置き換えます。

configTool ユーティリティーは、IBM Marketing Platform インストール済み 環境の tools ディレクトリーにあります。このユーティリティーについて詳 しくは、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。 右 側のペインに、「新しいカテゴリー名」フィールドが空の状態で 「partitionTemplate」ペインが表示されます。

- b. 新しいパーティションの名前を入力します。この名前には、62ページの『複数のパーティションのセットアップ』でファイル・システムにパーティションのディレクトリーを作成したときと同じ名前を使用します。
- c. 「変更の保存」をクリックします。 パーティション・テンプレートと同じカ テゴリーとプロパティーを持つ新しいパーティション構造が表示されます。

# パーティション・スーパーユーザー

Marketing Platform のユーザー全体でセキュリティーを管理するには、システム内の すべてのセキュリティー設定およびユーザー・アカウントにアクセスできるユーザ ー・アカウントが存在していなければなりません。

デフォルトでは、このユーザー・アカウントは platform\_admin です。このユーザ ー・アカウントは、特定の 1 つのパーティションには属さず、すべてのパーティシ ョン内のすべてのユーザー・アカウントにアクセスできます。

IBM 管理者は、同じアクセス・レベルを持つ追加ユーザーを作成できます。パーティション・スーパーユーザーになるためには、アカウントが Marketing Platform に 対する管理アクセス権限を持ち、「ユーザー」、「ユーザー・グループ」、および 「ユーザーの権限」ページに対するフルアクセス権限を持つ必要があります。パー ティション・スーパーユーザーには、製品固有のセキュリティー・ページ (Campaign セキュリティー・ページなど)に対するアクセス権限は不要です。

# パーティションのデータ・ソース・プロパティーの構成

作成するそれぞれのパーティションについて、データ・ソース・プロパティーを構 成する必要があります。適切なデータ・ソース・テンプレートを使用して、デー タ・ソース・プロパティーを作成します。

IBM インストーラーを実行すると、Campaign インストーラーは Marketing Platform データベースに指定されたデータベース・タイプに応じたテンプレートをインポー トします。

追加のデータベース・タイプに他のデータ・ソース・テンプレートが必要な場合 は、Marketing Platform **configTool** ユーティリティーを使用して、それらのテンプ レートを手動でインポートする必要があります。使用するデータベースの各タイプ に応じたテンプレートを必要な数だけインポートできます。

例えば、Marketing Platform および Campaign のインストール済み環境で、以下のデ ータベースを使用しているとします。

- Oracle システム・テーブル
- DB2 顧客 (ユーザー) テーブル
- DB2 追加の顧客 (ユーザー) テーブル

この場合は、2 セットの顧客 (ユーザー) テーブルに対応した DB2Template.xml テ ンプレートをインポートする必要があります。

Marketing Platform システム・テーブルと Campaign システム・テーブルのデータベ ースが同じデータベース・タイプである場合、インストーラーは自動的に、これら のシステム・テーブルに使用するテンプレートをインポートします (この例では、 Oracle テンプレートをインポートします)。

**注:** 新規パーティションを作成する場合、configTool ユーティリティーを使用し て、システム・テーブルおよびユーザー・テーブル用にデータ・ソース・テンプレ ートをインポートする必要があります。 手順については、57ページの『データ・ソース・テンプレートのインポート』を参照してください。

テンプレートから新しいカテゴリーを作成すると、新しいデータ・ソース構成プロ パティーのセットが作成されます。それぞれのタイプのデータ・ソースごとに、必 要なだけ新しいカテゴリーを作成します。上記の例では、Oracle テンプレートで 1 つの新規カテゴリーを作成し、DB2 テンプレートで 2 つの新規カテゴリーを作成 します。58 ページの『データ・ソース・テンプレートの複製』を参照してください。

データ・ソース・プロパティーを追加した後は、テンプレートから作成したカテゴ リーのデータ・ソース構成プロパティーを設定します。

手順については、58ページの『Campaign 構成プロパティー』を参照してください。

各パーティションのデータ・ソース・プロパティーを構成するために、以下のタス クを実行します。

- 適切なデータ・ソース・テンプレートを使用して、Campaign のそれぞれのデー タ・ソースの「構成」ページにデータ・ソース構成プロパティーを追加します。 IBM インストーラーを実行すると、Campaign インストーラーは Marketing Platform データベースに指定されたデータベース・タイプに応じたテンプレート をインポートします。追加のデータベース・タイプに他のデータ・ソース・テン プレートが必要な場合は、Marketing Platform configTool ユーティリティーを使 用して、それらのテンプレートを手動でインポートする必要があります。使用す るデータベースの各タイプに応じたテンプレートを、必要な数だけインポートで きます。 例えば、Marketing Platform および Campaign のインストール済み環境 で、以下のデータベースを使用しているとします。
  - Oracle システム・テーブル
  - DB2 顧客 (ユーザー) テーブル
  - DB2 追加の顧客 (ユーザー) テーブル

この場合は、2 セットの顧客 (ユーザー) テーブルに対応した DB2Template.xml テンプレートをインポートする必要があります。 Marketing Platform システム・ テーブルと Campaign システム・テーブルのデータベースが同じデータベース・ タイプである場合、インストーラーは自動的に、これらのシステム・テーブルに 使用するテンプレートをインポートします (この例では、Oracle テンプレートを インポートします)。手順については、57 ページの『データ・ソース・テンプレ ートのインポート』を参照してください。

- テンプレートから新しいカテゴリーを作成します。これにより、新しいデータ・ ソース構成プロパティーのセットが作成されます。それぞれのタイプのデータ・ ソースごとに、必要なだけ新しいカテゴリーを作成します。上記の例では、 Oracle テンプレートで1つの新規カテゴリーを作成し、DB2 テンプレートで2 つの新規カテゴリーを作成します。58ページの『データ・ソース・テンプレー トの複製』を参照してください。
- Campaign のそれぞれのデータ・ソースについて、データ・ソース構成プロパティーを設定します。 詳しくは、58ページの『Campaign 構成プロパティー』を 参照してください。

## Campaign のシステム・ユーザーのセットアップ

システム・ユーザーに 1 つ以上の Marketing Platform データ・ソースを関連付ける ことにより、ユーザーにログイン資格情報を求めるプロンプトを繰り返し出さない ようにできます。データ・ソースはそれぞれに、ユーザー名およびパスワードを指 定します。データ・ソースを参照することにより、データベースまたはその他の保 護リソースにアクセスするためのユーザー名とパスワードを提供できます。複数の データ・ソースをシステム・ユーザー・アカウントの構成に追加することで、その システム・ユーザーが複数のデータベースにアクセスできるようにすることができ ます。

IBM EMM アプリケーションは、以下の属性を使用して構成されたシステム・ユー ザー・アカウントを必要とする場合があります。

- システム・テーブルやその他のデータ・ソースにアクセスするためのログイン資格情報。
- システム内でオブジェクトを作成、変更、および削除するための特定の権限。

新規ユーザーのセットアップおよびユーザーへのデータ・ソースの割り当てについて詳しくは、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

Campaign のシステム・ユーザーをセットアップするには、以下の操作を実行します。

- 1. 既存または新規のユーザー・アカウントを使用して、以下のデータ・ソースに対 する資格情報を保存します。
  - Campaign システム・テーブル
  - ・ すべての顧客 (ユーザー) テーブル
- 2. UNIX では、システム・ユーザーの「**代替ログイン**」属性に、Campaign の UNIX ユーザーと特権を共有するグループに属するユーザーの UNIX 名を入力 します。

**注:** 複数のパーティションがある場合は、それぞれのパーティションに対してシ ステム・ユーザーを作成する必要があります。

#### 複数のパーティションがある場合の IBM Cognos レポートの使用

IBM Cognos レポートを、Campaign、eMessage、または Interact の複数のパーティ ションで使用するには、IBM Cognos のレポート・パッケージをパーティションご とに構成する必要があります。

手順については、「IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド」を参照して ください。

## パーティションへの役割、権限、およびグループの割り当て

Campaign 用に構成したパーティションを使用するには、その前に各パーティション 内の管理者の役割を持つユーザーに役割を割り当てる必要があります。さらに、各 パーティションにグループを割り当てる必要もあります。

partitionTool ユーティリティーを使用して、作成する各パーティションにデフォ ルトの管理ユーザーを作成してください。 各パーティションの管理ユーザーに役割を割り当てる - partitionTool ユーティリ ティーは、作成するパーティションごとに、デフォルトの管理ユーザーを作成しま す。「ユーザー」ページで、新規ユーザーに少なくとも 1 つのセキュリティーの役 割 (例えば、グローバル・ポリシー/管理) を割り当てます。新規ユーザーに役割を 割り当てた後、その新規ユーザーとして Campaign パーティションにログインでき ます。

複数の Campaign パーティションで IBM eMessage を使用可能にする予定の場合 は、Campaign パーティションごとに対応する eMessage パーティションを構成する 必要があります。 eMessage の追加パーティションの作成について詳しくは、 69 ペ ージの『第 9 章 eMessage での複数のパーティションの構成』を参照してくださ い。
# 第9章 eMessage での複数のパーティションの構成

eMessage に複数のパーティションを構成することにより、eMessage の異なるユー ザーのグループごとにデータを分離して保護することができます。各パーティショ ンはそれぞれ固有の構成プロパティーのセットを持つため、ユーザーのグループご とに eMessage をカスタマイズできます。

eMessage をインストールすると、Marketing Platform に eMessage のデフォルト・ パーティションが作成されます。eMessage の追加のパーティションを構成できま す。eMessage に作成する各パーティションは、Campaign に作成されたパーティシ ョンと連動します。

注: eMessage に複数のパーティションを構成するには、それぞれに対応するパーティションを Campaign に構成する必要があります。

eMessage に新しいパーティションを追加するには、eMessage および Campaign の Marketing Platform 構成に変更を加える必要があります。

重要: eMessage および Campaign の構成を変更したら、Campaign をホストする Web アプリケーション・サーバーを再始動し、レスポンスおよびコンタクトのトラ ッカー (RCT) を再始動する必要があります。Campaign リスナーを再始動しなけれ ばならない場合もあります。

変更を加える前に、既存の構成をバックアップしておいてください。

## eMessage のパーティション: 概要

eMessage のパーティションを作成することで、異なるユーザーのグループごとにデ ータを分離して保護できます。各パーティションは、eMessage の個別のインスタン スとしてユーザーに表示されます。同じシステムに他のパーティションが存在する ことを示すものはありません。各パーティションは、それぞれに固有の構成プロパ ティーのセットを持つため、ユーザーのグループごとに eMessage をカスタマイズ できます。

各パーティション内のユーザーは、そのパーティションに構成されている機能、デ ータ、および顧客テーブルにのみアクセスすることができます。例えば、 partition1 および partition2 という名前のパーティションを作成した場合、 partition1 内で作業している eMessage ユーザーは、partition1 内に構成されて いる顧客テーブルから E メール受信者を選択することはできますが、partition2 内に構成されている E メール受信者を選択することはできません。IBM は、ユー ザーがデータを共有する必要がある場合には、複数のパーティションを作成するこ とを推奨していません。

複数のパーティションで作業する場合は、eMessage のパーティションに固有の特 性、および eMessage のパーティションが Campaign のパーティションにどのよう に関係するかを理解する必要があります。また、eMessage の複数のパーティション を作成して構成する際のワークフローを十分に理解する必要もあります。

### eMessage のパーティションの特性

eMessage に新しいパーティションを作成して構成するときには、以下の点に注意してください。

• eMessage のパーティションを作成する方法は、Campaign のパーティションを作成する方法とは異なります。

eMessage に新しいパーティションを作成するには、Marketing Platform の eMessage 構成プロパティーで使用可能なパーティション・テンプレートを使用し ます。

- 各 eMessage パーティションの名前は、対応する Campaign パーティションの名前と完全に一致している必要があります。
- eMessage に作成する各パーティションは、IBM EMM Hosted Services に接続可 能でなければなりません。

パーティションごとに個別の IBM EMM Hosted Services アカウントを要求する 必要があります。アカウントに関連付けられたユーザー名とパスワードが、IBM から提供されます。eMessage が IBM EMM Hosted Services に接続する際に、こ れらのアクセス資格情報を自動的に提供できる Marketing Platform データ・ソー スを構成する必要があります。

アカウントの要求方法について詳しくは、「*IBM eMessage 起動および管理者ガ* イド」を参照してください。

## Campaign のパーティションとの関係

eMessage の各パーティションは、Marketing Platform で Campaign に対して作成さ れた特定のパーティションと連動します。Campaign パーティションは、以下を提供 します。

- eMessage システム・テーブルを格納する Campaign スキーマ
- パーティション内の Campaign のファイル構造。これには、eMessage が受信者リ ストを作成および処理するために使用するディレクトリーも含まれます。
- パーティション内での受信者リストの作成、および eMessage の使用可能化に関 連する構成プロパティー

eMessage は、特定のパーティション内の Campaign と連動するため、eMessage と Campaign のパーティション構造が同じ名前を指定していなければなりません。パー ティション名は、完全に一致する必要があります。

# eMessage に複数のパーティションを構成するためのロードマップ

eMessage にパーティションを作成するには、Marketing Platform 構成の中に存在する Campaign 内のパーティションと正確に同じ名前を使用します。

eMessage 用の新規パーティションを作成する前に、Campaign および eMessage 内のパーティションに関する eMessage のすべての前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

eMessage の新規パーティションを作成するには、以下の手順に従います。

- 1. 『eMessage の新規パーティションの作成』
- 2. 73 ページの『パーティション用の eMessage システム・テーブルの準備』
- 75 ページの『IBM EMM Hosted Services にアクセスするシステム・ユーザーの 構成』
- 4. 76 ページの『Campaign で新規パーティションに対応するように eMessage を使 用可能にする』
- 5. 76ページの『eMessage の受信者リスト・アップローダーの場所の指定』
- 6. 77 ページの『eMessage を構成した後のシステム・コンポーネントの再始動』
- 7. 77 ページの『eMessage パーティションの構成および接続のテスト』

## eMessage の新規パーティションの作成

eMessage をインストールすると、Marketing Platform に eMessage のデフォルト・ パーティションが作成されます。 eMessage のために複数のパーティションを作成 することにより、異なるユーザーのグループごとにデータを分離して保護すること ができます。

eMessage のためにパーティションを作成して構成する前に、eMessage および Campaign について以下の要件を満たす必要があります。

- eMessage に複数のパーティションを作成する前に、eMessage に関する以下のタ スクを完了します。
  - IBM サポートに連絡して、各パーティションのアカウントと資格情報を要求します。パーティションごとに別個の IBM EMM Hosted Services アカウントとアクセス権限の資格情報が必要です。詳しくは、「IBM 起動および管理者ガイド」を参照してください。
  - パーティションの Campaign スキーマに作成する予定の eMessage システム・ テーブルにアクセス可能なシステム・ユーザーを作成します。

Campaign パーティション用に作成したシステム・ユーザーを更新して、その ユーザーも eMessage システム・テーブルにアクセスできるようにすることが 可能です。

- eMessage に複数のパーティションを作成する前に、Campaign で以下のタスクを 完了します。
  - eMessage 用に作成するパーティションと連動するパーティションを Campaign に作成します。パーティションの名前を記録します。
  - Campaign パーティション内に Campaign システム・テーブルを作成します。
  - パーティション内のシステム・テーブルにアクセスするシステム・ユーザーを 構成します。

複数のパーティションがある場合は、パーティションごとに固有のシステム・ ユーザーが必要です。複数のパーティションで同じシステム・ユーザーを使用 することはできません。

IBM インストーラーは、初期インストール時に eMessage 構成プロパティーとデフ ォルト・パーティションを登録します。デフォルト・パーティションには、追加パ ーティションを作成するためにコピーできるテンプレートが組み込まれています。 eMessage の新規パーティションを作成するには、以下の操作を実行します。

- 「eMessage」>「partitions」>「(partition)」にナビゲートして、パーティション・テンプレートを複製します。
- 2. 新しいパーティションに名前を付けます。

注: eMessage では、作成後のパーティションの削除をサポートしていません。

## パーティション・テンプレートの識別

「構成」ページでは、デフォルト・パーティションのナビゲーション・ツリーに eMessage パーティション・テンプレートが表示されます。ツリー内でパーティショ ン・テンプレートを識別できるように、パーティション・テンプレートのラベルは 括弧で囲まれた斜体となっています。

#### 新規パーティションの命名

新しいパーティションに名前を付ける際には、以下の制約が適用されます。

- 名前は、ツリー内で兄弟となっているカテゴリー(つまり、同じ親カテゴリーを 共有するカテゴリー)の間で一意でなければなりません。
- パーティション名をピリオドで開始することはできません。さらに、パーティション名に以下の文字を使用することはできません。

注: eMessage は特定のパーティション内の Campaign と連動するため、eMessage と Campaign のパーティションは同じパーティション名を指定していなければなり ません。

# パーティション用の eMessage システム・テーブルの準備

eMessage に作成するパーティションごとに、そのパーティションが Campaign スキ ーマ内で使用する eMessageシステム・テーブルを作成してデータを追加し、構成す る必要があります。

パーティション用の eMessage システム・テーブルを準備するには、以下の操作を 実行します。

- eMessage システム・テーブルを作成します。 データベース・クライアントで、 システム・テーブルを作成 する SQL スクリプトを Campaign データベースに 対して実行します。
- 作成したテーブルにデータを追加します。 データベース・クライアントを使用 して、テーブルにデータを追加 するスクリプトを Campaign データベースに対 して実行します。SQL スクリプトについて詳しくは、40ページの『手動での eMessage システム・テーブルの作成とデータ設定』の参照表でスクリプト名お よび場所を確認してください。
- パーティションの eMessage 構成に以下の構成プロパティーを設定し、そのパー ティションの Campaign システム・ユーザーに対して構成したユーザー名および プラットフォーム・データ・ソースを指定します。
  - eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > asmUserForDBCredentials
  - eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > amDataSourceForDBCredentials

eMessage は、Marketing Platform で構成されたシステム・ユーザーを使用して、 パーティションのシステム・テーブルにアクセスします。このシステム・ユーザ ーに追加された Marketing Platform データ・ソースが、必要なアクセス資格情報 を提供します。eMessage システム・テーブルはパーティションの Campaign ス キーマ内に存在するため、Campaign スキーマにアクセスするために作成したシ ステム・ユーザーを使用して、パーティションの eMessage システム・テーブル にアクセスすることができます。

- 4. パーティションの構成プロパティーで、以下のプロパティーを更新します。
  - eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > type
  - eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > schemaName
  - eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > jdbcBatchSize
  - eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > jdbcClassName
  - eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > jdbcURI

構成プロパティーの設定について詳しく学ぶには、各プロパティーの Marketing Platform オンライン・ヘルプを参照してください。これらの構成プロパティーおよび eMessage の構成についての追加情報は、「*IBM eMessage 起動および管理*者ガイド」を参照してください。

## 手動での eMessage システム・テーブルの作成とデータ設定

eMessage の場合、Campaign スキーマに追加のシステム・テーブルを作成し、これ らのテーブルに初期データを設定する必要があります。システム・テーブルを自動 的に作成するオプションを選択すると、Campaign インストーラーは、Campaign ス キーマで eMessage システム・テーブルを自動的に作成し、データを追加します。 ただし、そのオプションを選択しない場合は、eMessage システム・テーブルを手動 で作成してデータを追加する必要があります。

データベース・クライアントを使用して、Campaign データベースに対して適切なス クリプトを実行します。

注: eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内のサ ブフォルダーです。

### eMessage テーブルを作成するスクリプト

IBM では、ローカル環境に eMessage テーブルを作成する ace\_op\_systab スクリ プトを提供しています。

Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されている場合 は、eMessage インストール済み環境の ddl/unicode ディレクトリーにある適切な スクリプトを見つけます。

Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されていない場合 は、eMessage インストール済み環境の dd1 ディレクトリーにある非 Unicode 用の スクリプトを使用します。使用する必要のあるスクリプトを調べるには、次の表を ご利用ください。

表 22. eMessage テーブルを作成するスクリプト

データ・ソース・		
タイプ	スクリプト名	
IBM DB2	ace_op_systab_db2.sql	
	システム・テーブルが置かれるユーザー・テーブル・スペースおよびシ ステム一時テーブル・スペースには、それぞれ 16K 以上のページ・サ イズが必要です。	
Microsoft SQL	ace_op_systab_sqlsvr.sql	
Server		
Oracle	ace_op_systab_ora.sql	

## eMessage テーブルにデータを追加するスクリプト

IBM では、ローカル環境で eMessage テーブルにデータを追加する ace op populate systab スクリプトを提供しています。

データ追加用スクリプトは、eMessage インストール済み環境の ddl ディレクトリーに格納されています。 IBM で用意しているデータ追加用スクリプトのバージョンは 1 つだけです。これらのスクリプトは、Unicode テーブルまたは非 Unicode テーブルのいずれにも使用できます。

注: eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内のサ ブフォルダーです。

使用する必要のあるスクリプトを調べるには、次の表をご利用ください。

表 23. eMessage テーブルにデータを追加するスクリプト

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ace_op_populate_systab_db2.sql
Microsoft SQL	ace_op_populate_systab_sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ace_op_populate_systab_ora.sql

## IBM EMM Hosted Services にアクセスするシステム・ユーザーの構成

eMessage コンポーネントは、ログイン資格情報の手動入力を必要とせずに、IBM EMM Hosted Services にアクセスできなければなりません。自動ログインを確立す るには、Marketing Platform に、必要なアクセス資格情報を提供できるシステム・ユ ーザーを定義します。

ユーザー管理およびトラブルシューティングを単純にするために、既存のシステム・ユーザーがホスト・サービスおよびローカル・システム・テーブルにアクセス するように変更することができます。複数のシステムに資格情報を提供する単一の システム・ユーザーを構成できます。例えば、Campaign システム・ユーザーの構成 を変更することで、IBM EMM Hosted Services および Campaign スキーマの eMessage システム・テーブルに自動的にアクセスできる単一のユーザーを作成しま す。

IBM EMM Hosted Services にアクセスするために必要な資格情報は、ご使用のホス トされたメッセージング・アカウント用に IBM から提供されるユーザー名とパス ワードです。使用する資格情報は、IBM の米国のデータ・センターに接続するか、 IBM が英国で保守しているデータ・センターに接続するかによって異なります。ど ちらのデータ・センターを使用するかを決定するには、IBM にご相談ください。

**IBM EMM Hosted Services** と通信するシステム・ユーザーの構成方法に関する具体的な情報については、「*IBM eMessage 起動および管理者ガイド*」を参照してください。

システム・ユーザーおよびデータ・ソースの作成方法に関する一般情報については、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

## IBM EMM Hosted Services にアクセスするようにパーティション を構成する

パーティション内の IBM eMessage コンポーネントは、IBM EMM Hosted Services との通信を試みる際に、有効なログイン資格情報を自動的に提供できるようになっ ていなければなりません。そのためには、Marketing Platform ユーザーに IBM EMM Hosted Services ログイン資格情報を追加する必要があります。このユーザー は、eMessage システム・ユーザーになります。 IBM EMM Hosted Services 資格情報を格納するプラットフォーム・データ・ソース を、eMessage システム・ユーザーに追加できます。このユーザーは、パーティショ ン内の Campaign システム・テーブルにアクセスするシステム・ユーザーと同じで あっても構いません。

パーティションのシステム・ユーザーを構成するためのステップは、eMessage の初 期インストール時に、最初のパーティションを作成するために従ったステップと同 じです。IBM EMM Hosted Services ログイン資格情報をシステム・ユーザーに追加 する方法について詳しくは、「*IBM eMessage 起動および管理者ガイド*」を参照して ください。

IBM EMM Hosted Services にアクセスするために必要な資格情報は、最初の起動プロセスで IBM から提供されるユーザー名とパスワードです。

重要: 追加するパーティションごとに、個別のユーザー名およびパスワードを IBM に要求する必要があります。

# Campaign で新規パーティションに対応するように eMessage を使用可能 にする

新規 eMessage パーティションのユーザーが Campaign にある eMessage の機能に アクセスできるようにするには、Campaign パーティションで eMessage を使用可能 にするため、対応する Campaign パーティションの eMessageInstalled 構成プロパ ティーを更新する必要があります。

例えば、eMessage メール配信タブは、Campaign 構成で eMessage を使用可能にす るまでは、Campaign インターフェースに表示されません。

パーティションで eMessage を使用可能にするには、Campaign パーティションに対応する eMessageInstalled 構成プロパティーを更新します。

Marketing Platform 構成で、「Campaign | partitions | partition[n] | server | internal」にナビゲートして、eMessageInstalled プロパティーを yes に設定します。

# eMessage の受信者リスト・アップローダーの場所の指定

eMessage を使用可能にするパーティションごとに、受信者リスト・アップローダー (RLU)の場所を指定します。 RLU は、出力リスト・テーブルのデータおよび関連 するメタデータを、IBM によってホストされるリモート・サービスにアップロード します。

初期インストール時に、IBM インストーラーは自動的に RLU の場所をデフォル ト・パーティション (partition1) の構成に追加します。ただし、新しいパーティショ ンを環境に追加するときには、新しいパーティションのすべてが正しい場所を参照 するように手動で構成する必要があります。eMessage のインストールごとに RLU は 1 つしか存在しないので、すべてのパーティションは、Campaign Web アプリケ ーションをホストするマシンのローカル・ファイル・システムに置かれた同じプラ グイン・ファイルにアクセスします。  Campaign インストール済み環境の partition1 の構成で、 「Campaign」>「partitions」>「partition1」>「eMessage」> 「eMessagePluginJarFile」 にナビゲートします。

このプロパティーの値は、RLU として機能するプラグイン・ファイル (emessageplugin.jar)の絶対パスです。

例: C:¥IBM¥Unica¥eMessage¥plugin¥emessageplugin.jar

- 2. eMessagePluginJarFile プロパティーの値をコピーします。
- 3. 新しいパーティションの eMessagePluginJarFile にナビゲートし、partition1 か らコピーしたパスを入力します。

すべてのパーティションは、RLU に対して同じ場所を使用する必要があります。

# eMessage を構成した後のシステム・コンポーネントの再始動

eMessage および Campaign の構成を変更したら、Campaign Web アプリケーショ ン・サーバー、レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT)、および Campaign リスナーを再始動する必要があります。

1. Campaign の Web アプリケーション・サーバーを再始動します。

手順については、ご使用の Web アプリケーション・サーバーの資料を参照して ください。

サーバーが始動したことを検査するには、IBM EMM インストール済み環境にロ グインし、Campaign にアクセスして、既存のメールを開けることを確認しま す。

2. レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を再始動します。

RCT を手動で再始動するには、eMessage インストール済み環境の bin ディレ クトリーにある rct スクリプトを実行します (rct start コマンド)。

RCT がサービスとして実行されるように構成されている場合は、RCT サービス を再始動します。RCT をサービスとして初めて再始動するときは、後で RCT を手動で再始動する必要があります。

詳しくは、96ページの『eMessage レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) スクリプト』を参照してください。

- 3. Campaign リスナーを次のようにして再始動します。
  - Windows の場合は、Campaign インストール済み環境の bin ディレクトリー にある cmpServer.bat ファイルを実行します。
  - UNIX の場合は、./rc.unica ac start コマンドを root として実行します。

## eMessage パーティションの構成および接続のテスト

eMessage が提供しているスクリプトを使用して、パーティションの構成および IBM EMM Hosted Services への接続を検証します。さらに、パーティションからメ ーリング・インターフェースにアクセスできることも確認する必要があります。 重要: Campaign または eMessage の構成を変更した場合は、作業を開始する前に、 Campaign をホストする Web アプリケーション・サーバーを再始動したことと、レ スポンスおよびコンタクトのトラッカーを再始動したことを確認してください。

パーティションのテスト方法について詳しくは、「*IBM eMessage 起動および管理者* ガイド」を参照してください。

# 第 10 章 Marketing Platform ユーティリティー

このセクションでは、Marketing Platform ユーティリティーの概要を説明します。こ の説明には、ユーティリティーのすべてに適用される詳細が含まれます。これらの 詳細は、個々のユーティリティーの説明には記載しません。

## ユーティリティーの場所

Marketing Platform ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにあります。

## ユーティリティーのリストおよび説明

Marketing Platform は、以下のユーティリティーを提供します。

- 81ページの『alertConfigTool』 IBM EMM 製品のアラートおよび構成を登録 します。
- 81 ページの『configTool』 製品の登録を含め、構成設定をインポート、エク スポート、および削除します。
- 86ページの『datafilteringScriptTool』 データ・フィルターを作成します。
- 87ページの『encryptPasswords』 パスワードを暗号化して保管します。
- 89ページの『partitionTool』 パーティションのデータベース・エントリーを作成します。
- 91ページの『populateDb』 Marketing Platform データベースにデータを追加し ます。
- 92ページの『restoreAccess』 platformAdminRole 役割を持つユーザーを復元します。
- 94ページの『scheduler\_console\_client』 トリガーを listen するように構成され ている IBM EMM スケジューラー・ジョブをリストし、開始します。

## Marketing Platform ユーティリティーを実行するための前提条件

以下は、すべての Marketing Platform ユーティリティーの実行に関する前提条件です。

- すべてのユーティリティーは、そのユーティリティーが置かれているディレクト リー (デフォルトでは、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリー)から実行します。
- UNIX でのベスト・プラクティスは、Marketing Platform が配置されているアプリ ケーション・サーバーを実行するユーザー・アカウントと同じユーザー・アカウ ントでユーティリティーを実行することです。別のユーザー・アカウントでユー ティリティーを実行する場合は、platform.log ファイルに設定されたアクセス許 可を調整して、そのユーザー・アカウントがこのファイルに書き込めるようにし ます。アクセス許可を調整しなければ、ユーティリティーがログ・ファイルに書 き込むことができないため、エラー・メッセージが表示される場合があります。 ただし、その場合でもツールは正常に機能します。

## 接続問題のトラブルシューティング

encryptPasswords を除くすべての Marketing Platform ユーティリティーは、 Marketing Platform システム・テーブルと対話します。システム・テーブル・データ ベースに接続するために、これらのユーティリティーは以下の接続情報を使用しま す。これらの情報は、インストーラーが Marketing Platform のインストール時に提 供された情報を使用して設定します。上記の情報は、Marketing Platform インストー ル済み環境の tools/bin ディレクトリーにある、jdbc.properties ファイルに保管 されています。

- JDBC ドライバー名
- JDBC 接続 URL (ホスト、ポート、およびデータベース名が組み込まれます。)
- データ・ソース・ログイン
- データ・ソース・パスワード (暗号化済み)

さらに、これらのユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプト、またはコマンド・ラインの いずれかで設定される、JAVA\_HOME 環境変数に依存します。 Marketing Platform イ ンストーラーは、この変数を setenv スクリプトに自動的に設定しているはずです が、ユーティリティーの実行に問題がある場合には、JAVA\_HOME 変数が設定されて いることを確認することをお勧めします。 JDK は Sun バージョンでなければなり ません (例えば、WebLogic で使用可能な JRockit JDK であってはなりません)。

### 特殊文字

オペレーティング・システムで予約文字として指定されている文字は、エスケープ する必要があります。予約文字のリストおよびエスケープする方法については、オ ペレーティング・システムの資料を参照してください。

### Marketing Platform ユーティリティーでの標準オプション

以下のオプションは、すべての Marketing Platform ユーティリティーで選択可能で す。

-l logLevel

コンソールに表示されるログ情報のレベルを設定します。オプションは、high、 medium、および low です。デフォルトは low です。

-L

コンソール・メッセージのロケールを設定します。デフォルト・ロケールは en\_US です。選択可能なオプションの値は、Marketing Platform が翻訳されている言語によ って決まります。ロケールを指定するには、ISO 639-1 および ISO 3166 に従った ICU ロケール ID を使用します。

#### -h

コンソールに使用法に関する簡単なメッセージを表示します。

-m

コンソールに、このユーティリティーのマニュアル・ページを表示します。

- V

コンソールに、実行の詳細を表示します。

## alertConfigTool

通知タイプは各種 IBM EMM 製品に固有です。 alertConfigTool ユーティリティ ーを使用して通知タイプを登録します。インストールまたはアップグレード時にイ ンストーラーが通知タイプの登録を自動的に行わなかった場合に使用します。

### 構文

alertConfigTool -i -f importFile

### コマンド

#### -i -f importFile

指定された XML ファイルからアラートと通知のタイプをインポートします。

### 例

 Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにある Platform\_alerts\_configuration.xml という名前のファイルから、アラートと通知のタイプをインポートします。

alertConfigTool -i -f Platform\_alerts\_configuration.xml

# configTool

「構成」ページのプロパティーと値は、システム・テーブルに保管されます。 configTool ユーティリティーを使用して、構成設定をシステム・テーブルにインポ ートしたり、システム・テーブルからエクスポートしたりできます。

## configTool をいつ使用するか

以下の理由で configTool を使用することがあります。

- Campaign に備わっているパーティションおよびデータ・ソースのテンプレートを インポートする。その後、構成ページを使って、それの変更および複製を行うこ とができます。
- 製品インストーラーが自動的にプロパティーをデータベースに追加できない場合 に、IBM EMM 製品を登録 (構成プロパティーをインポート) する。
- バックアップ用、または IBM EMM の他のインストール済み環境へのインポー ト用に、XML バージョンの構成設定をエクスポートする。
- 「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴリーを削除する。これを行うには、 configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリーを作成する XML を 手動で削除し、configTool を使用して、編集された XML をインポートしま す。

**重要:** このユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブル・データベ ース (構成プロパティーとその値が含まれている)の usm\_configuration テーブル と usm\_configuration\_values テーブルを変更します。最良の結果を得るために、 それらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って既存 の構成をエクスポートし、生成されるファイルをバックアップしてください。そう することで、configTool を使ったインポートに失敗した場合に構成を復元すること ができます。

## 構文

configTool -d -p "elementPath" [-o] configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o] configTool -x -p "elementPath" -f exportFile

configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u
productName

## コマンド

#### -d -p "elementPath" [o]

構成プロパティー階層内のパスを指定して、構成プロパティーとその設定を削除します。

エレメント・パスには、カテゴリーおよびプロパティーの内部名が使用されている 必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリーまたはプ ロパティーを選択して、右のペインにある括弧内に示されているパスを確認しま す。| 文字を使って構成プロパティー階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲 みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドで削除できるのは、アプリケーション内のカテゴリーおよびプロパ ティーのみで、アプリケーション全体は削除できません。アプリケーション全体 を登録解除するには、-u コマンドを使用します。
- 「構成」ページに「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴリーを削除するには、-0オプションを使用します。

-d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパ スにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定す る XML ファイルに含まれていない場合)。

#### -i -p "parentElementPath" -f importFile [o]

指定された XML ファイルから構成プロパティーとその設定をインポートします。

インポートするには、カテゴリーのインポート先の親要素へのパスを指定します。 configTool ユーティリティーは、パス内で指定するカテゴリーの下にプロパティー をインポートします。 最上位より下のいずれのレベルでもカテゴリーを追加できますが、最上位カテゴリ ーと同じレベルではカテゴリーを追加できません。

親エレメント・パスには、カテゴリーおよびプロパティーの内部名が使用されてい る必要があります。これらの内部名は、「構成」ページに移動して、必要なカテゴ リーまたはプロパティーを選択し、右側のペインの括弧内に表示されるパスを調べ ることによって得ることができます。 | 文字を使って構成プロパティー階層のパス を区切り、パスを二重引用符で囲みます。

tools/bin ディレクトリーからのインポート・ファイルの相対位置を指定できま す。あるいは、ディレクトリーの絶対パスを指定できます。相対パスを指定する か、またはパスを指定しない場合、configTool はまず、tools/bin ディレクトリー からの相対位置にあるファイルを探します。

デフォルトではこのコマンドで既存のカテゴリーは上書きされませんが、-o オプションを使用して強制的に上書きすることができます。

#### -x -p "elementPath" -f exportFile

指定された名前の XML ファイルに、構成プロパティーとそれらの設定をエクスポートします。

すべての構成プロパティーをエクスポートできます。あるいは、構成プロパティー 階層内のパスを指定することで、特定のカテゴリーに限定してエクスポートするこ ともできます。

要素パスにはカテゴリーおよびプロパティーの内部名を使用する必要があります。 これは、「構成」ページに移動し、必要なカテゴリーまたはプロパティーを選択し て、右側のペインで括弧付きで表示されるパスを見ると分かります。| 文字を使っ て構成プロパティー階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーからのエクスポート・ファイルの相対位置を指定できます。あるいは、ディレクトリーの絶対パスを指定できます。ファイル指定に区切り記号 (UNIX の場合は /、Windows の場合は / または ¥) が含まれていない場合、 configTool はファイルを Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーの下に作成します。 xml 拡張子を付けなかった場合、configTool がそれを付加します。

#### -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動アップグレードにおける構成プロパティーのインポート に使用されます。新しい構成プロパティーが含まれるフィックスパックを適用し、 その後にアップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構 成ファイルをインポートすると、フィックスパックを適用したときに設定された値 がオーバーライドされる場合があります。-vp コマンドを使用すると、インポート を行っても、それ以前に設定された構成値はオーバーライドされません。

**重要:** configTool ユーティリティーを -vp オプションを指定して使用したら、変更 が適用されるように、Marketing Platform がデプロイされている Web アプリケーシ ョン・サーバーを再始動する必要があります。 -d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパ スにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定す る XML ファイルに含まれていない場合)。

#### -r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。 tools/bin ディレクトリーに相対する登録ファイルの場所を指定することも、絶対パスを指定することもできます。デフォルトでこのコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用して上書きを強制することができます。 productName パラメーターは、上記にリストされているうちのいずれかでなければなりません。

次のことに注意してください。

-r コマンドを使用する際、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして
 <application> を指定する必要があります。

Marketing Platform データベースに構成プロパティーを挿入するために使用できる 他のファイルが、製品と一緒に提供されることがあります。それらのファイルに ついては、-i コマンドを使用します。最初のタグとして <application> タグが あるファイルだけを -r コマンドとともに使用できます。

- Marketing Platform の登録ファイルは Manager\_config.xml という名前で、1 番目 のタグは <Suite> です。新規インストールでこのファイルを登録するには、 populateDb ユーティリティーを使用するか、「*IBM Marketing Platform インスト* ール・ガイド」にある説明に従って Marketing Platform インストーラーを再実行 します。
- 最初のインストールの後、Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、 configTool を -r コマンドおよび -o を指定して実行して、既存のプロパティー を上書きします。

configTool ユーティリティーは、製品の登録または登録解除を行うコマンドのパラ メーターとして製品名を使用します。 IBM EMM の 8.5.0 リリースでは、多くの製 品名が変更されています。しかし、configTool によって認識される名前は変更され ていません。configTool で使用するための有効な製品名を、現在の製品名と共に以 下にリストします。

製品名	configTool で使用する名前
Marketing Platform	Manager
Campaign	Campaign
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Contact Optimization	Optimize
Marketing Operations	Plan
CustomerInsight	Insight
Digital Analytics for On Premises	NetInsight
Opportunity Detection	Detect

表 24. configTool 登録および登録解除で使用する製品名

表 24. configTool 登録および登録解除で使用する製品名 (続き)

製品名	configTool で使用する名前
Leads	Leads
Interaction History	InteractionHistory
Attribution Modeler	AttributionModeler
IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise	SPSS
Marketing Management Edition	
Digital Analytics	Coremetrics

#### -u productName

productName によって指定されたアプリケーションを登録解除します。製品カテゴ リーにパスを含める必要はありません。製品名は必須で、それのみで十分です。こ の処理は、製品のすべてのプロパティーおよび構成設定を削除します。

## オプション

#### -0

-i または -r と共に使用すると、既存のカテゴリーまたは製品登録 (ノード)を上書きします。

-d と共に使用すると、「構成」ページに「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴ リー (ノード)を削除することができます。

## 例

 Marketing Platform インストール済み環境の下の conf ディレクトリーの Product\_config.xml という名前のファイルから構成設定をインポートします。

configTool -i -p "Affinium" -f Product\_config.xml

 提供されている Campaign データ・ソース・テンプレートの 1 つを、デフォルト の Campaign パーティションである partition1 にインポートします。この例で は、Oracle データ・ソース・テンプレートである OracleTemplate.xml が、 Marketing Platform インストール済み環境下の tools/bin ディレクトリーに置か れているとします。

configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f
OracleTemplate.xml

 すべての構成設定を D:¥backups ディレクトリーの myConfig.xml という名前の ファイルにエクスポートします。

configTool -x -f D:¥backups¥myConfig.xml

 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーを伴う) をエク スポートし、partitionTemplate.xml という名前のファイルに保存し、Marketing Platform インストール済み環境下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーに保 管します。

configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f
partitionTemplate.xml

Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーにある app\_config.xml という名前のファイルを使用して、productNameという名前のアプリケーションを手動で登録して、このアプリケーションの既存の登録を上書きするように強制します。

configTool -r product Name -f app\_config.xml -o

• productName という名前のアプリケーションを登録解除します。

configTool -u productName

## datafilteringScriptTool

datafilteringScriptTool ユーティリティーは、XML ファイルを読み取って、 Marketing Platform システム・テーブル・データベース内のデータ・フィルター・テ ーブルにデータを追加します。

XML をどのように作成するかによって、このユーティリティーは 2 つの方法で使 用できます。

- XML 要素の1 つのセットを使用して、フィールド値の固有の組み合わせを基 に、データ・フィルターを自動生成できます(固有の組み合わせごとに、1 つの データ・フィルター)。
- XML 要素のわずかに異なるセットを使用して、ユーティリティーが作成する各 データ・フィルターを指定できます。

XML の作成について詳しくは、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

### どのような場合に datafilteringScriptTool を使用するか

新しいデータ・フィルターを作成するときには、datafilteringScriptTool を使用 する必要があります。

## 前提条件

Marketing Platform が配置され、実行されている必要があります。

### SSL での datafilteringScriptTool の使用

Marketing Platform が片方向 SSL を使用して配置されている場合は、 datafilteringScriptTool スクリプトを変更して、ハンドシェークを実行する SSL オプ ションを追加する必要があります。スクリプトを変更するには、以下の情報が必要 です。

- トラストストア・ファイル名およびパス
- トラストストアのパスワード

テキスト・エディターで、datafilteringScriptTool スクリプト (.bat または .sh) を 開き、以下のような行を見つけます (Windows バージョンの例です)。

:callexec

"%JAVA\_HOME%¥bin¥java" -DUNICA\_PLATFORM\_HOME="%UNICA\_PLATFORM\_HOME%"

com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %\*

これらの行を、以下のように編集します (新しいテキストは太字になっています)。 myTrustStore.jks および myPassword を、ご使用のトラストストアのパスとファイ ル名およびトラストストアのパスワードで置き換えます。

:callexec

SET SSL\_OPTIONS=-Djavax.net.ssl.keyStoreType="JKS"

-Djavax.net.ssl.trustStore="C:¥security¥myTrustStore.jks"

-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=myPassword

"%JAVA\_HOME%¥bin¥java" -DUNICA\_PLATFORM\_HOME="%UNICA\_PLATFORM\_HOME%"
%SSL OPTIONS%

com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %\*

### 構文

datafilteringScriptTool -r pathfile

### コマンド

#### -r path\_file

指定された XML ファイルからデータ・フィルター仕様をインポートします。ファ イルがインストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにない場合、*path\_*file パラメーターにパスを指定して二重引用符で囲みます。

### 例

 C:¥unica¥xml ディレクトリーにある collaborateDataFilters.xml という名前の ファイルを使用して、データ・フィルター・システム・テーブルにデータを追加 します。

datafilteringScriptTool -r "C:¥unica¥xml¥collaborateDataFilters.xml"

### encryptPasswords

encryptPasswords ユーティリティーは、Marketing Platform が内部的に使用する 2 つのパスワードのいずれかを暗号化して保管するために使用します。

ユーティリティーは、以下の2つのパスワードを暗号化できます。

- Marketing Platform がそのシステム・テーブルにアクセスするために使用するパス ワード。ユーティリティーは、既存の暗号化されたパスワード (Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにある、 jdbc,properties ファイルに保管されています)を新しいパスワードで置き換え ます。
- Marketing Platform が、Marketing Platform または Web アプリケーション・サー バーに付属のデフォルトの証明書以外の証明書を使って SSL を使用するように

構成されている場合に使用する鍵ストア・パスワード。この証明書は、自己署名 証明書または認証局からの証明書のいずれかです。

## どのような場合に encryptPasswords を使用するか

encryptPasswords は、次のような目的で使用します。

- Marketing Platform システム・テーブル・データベースにアクセスするために使用 するアカウントのパスワードを変更する場合。
- 自己署名証明書を作成したか、認証局から証明書を入手した場合。

## 前提条件

- encryptPasswords を実行する前に、新しいデータベース・パスワードを暗号化お よび保管して、jdbc.properties ファイルのバックアップ・コピーを作成しま す。このファイルは、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin デ ィレクトリーにあります。
- encryptPasswords を実行して鍵ストアのパスワードを暗号化し、保管するには、 デジタル証明書を作成または入手して、鍵ストアのパスワードを知っておかなけ ればなりません。

### 構文

encryptPasswords -d databasePassword

encryptPasswords -k keystorePassword

## コマンド

#### -d databasePassword

データベース・パスワードを暗号化します。

#### -k keystorePassword

鍵ストア・パスワードを暗号化して、pfile という名前のファイルに保管します。

### 例

 Marketing Platform のインストール時に、システム・テーブル・データベース・ア カウントのログインは、myLogin に設定されていました。インストールしてから しばらく経った今、このアカウントのパスワードを newPassword に変更しまし た。以下のように encryptPasswords を実行して、データベース・パスワードを 暗号化して保管します。

encryptPasswords -d newPassword

 SSL を使用するように IBM EMM アプリケーションを構成しています。デジタ ル証明書は、既に作成または入手しました。以下のように encryptPasswords を 実行して、鍵ストア・パスワードを暗号化して保管します。

encryptPasswords -k myPassword

# partitionTool

パーティションには、Campaign のポリシーおよび役割が関連付けられます。これら のポリシーと役割、およびそれぞれのパーティションとの関連付けは、Marketing Platform システム・テーブルに保管されます。partitionTool ユーティリティー は、Marketing Platform システム・テーブルにパーティションに関する基本ポリシー および役割情報のシードを行います。

## どのような場合に partitionTool を使用するか

作成するパーティションごとに、partitionTool を使用して、Marketing Platform シ ステム・テーブルへの基本ポリシーおよび役割情報のシードを行います。

Campaign に複数のパーティションをセットアップする方法について詳しくは、お使いのバージョンの Campaign のインストール・ガイドを参照してください。

### 特殊文字とスペース

スペースが含まれるパーティションの説明またはユーザー、グループ、あるいはパ ーティションの名前は、二重引用符で囲む必要があります。

### 構文

partitionTool -c -s sourcePartition -n newPartitionName [-u admin\_user\_name] [-d partitionDescription] [-g groupName]

### コマンド

partitionTool ユーティリティーでは、以下のコマンドを使用できます。

#### -C

-s オプションを使用して指定された既存のパーティションのポリシーおよび役割を 複製し、-n オプションを使用して指定された名前を付けます。c では、これらのオ プションの両方が必須です。このコマンドは以下の操作を行います。

- Campaign の管理役割ポリシーとグローバル・ポリシーの両方で、管理役割を持つ 新規 IBM EMM ユーザーを作成します。指定するパーティション名が、自動的 にこのユーザーのパスワードとして設定されます。
- 新規 Marketing Platform グループを作成し、新しい管理ユーザーをそのグループのメンバーにします。
- 新規パーティション・オブジェクトを作成します。
- ソース・パーティションに関連付けられたすべてのポリシーを複製し、これらの ポリシーを新しいパーティションに関連付けます。
- 複製されたポリシーごとに、そのポリシーに関連付けられたすべての役割を複製 します。
- 複製された役割ごとに、ソース役割でマップされていたように、すべての機能を マップします。
- 新規 Marketing Platform グループを、役割の複製中に作成されたシステム定義の 最新の管理役割に割り当てます。デフォルトのパーティションである partition1 を複製する場合、この役割はデフォルト管理役割 (Admin) となります。

## オプション

#### -d partitionDescription

オプション。-c との組み合わせでのみ使用します。-list コマンドの出力に表示す る説明を指定します。 256 文字以内でなければなりません。説明にスペースが含ま れる場合は、二重引用符で囲みます。

#### -g groupName

オプション。-c との組み合わせでのみ使用します。ユーティリティーが作成する Marketing Platform 管理グループの名前を指定します。名前は、Marketing Platform のこのインスタンス内で一意でなければなりません。

名前が定義されない場合のデフォルトは、partition nameAdminGroup です。

#### -n partitionName

-list ではオプション、-c では必須です。32 文字以内でなければなりません。

-list で使用する場合、情報をリストするパーティションを指定します。

-c で使用する場合、新規パーティションの名前を指定します。指定するパーティション名は、管理ユーザーのパスワードとして使用されます。パーティション名は、 そのパーティションを(「構成」ページでパーティション・テンプレートを使用して)構成したときにパーティションに指定した名前と一致する必要があります。

#### -s sourcePartition

必須。-c との組み合わせでのみ使用します。複製するソース・パーティションの名前です。

#### -u adminUserName

オプション。-c との組み合わせでのみ使用します。複製されたパーティションの管 理ユーザーのユーザー名を指定します。名前は、Marketing Platform のこのインスタ ンス内で一意でなければなりません。

名前が定義されない場合のデフォルトは、partitionNameAdminUser です。

パーティション名が、自動的にこのユーザーのパスワードとして設定されます。

#### 例

- 以下の特性を持つパーティションを作成します。
  - partition1 から複製する。
  - パーティション名を myPartition にする。
  - デフォルトのユーザー名 (myPartitionAdminUser) およびパスワード (myPartition) を使用する。
  - デフォルトのグループ名 (myPartitionAdminGroup) を使用する。
  - 説明を「ClonedFromPartition1」にする。

partitionTool -c -s partition1 -n myPartition -d "ClonedFromPartition1"

- 以下の特性を持つパーティションを作成します。
  - partition1 から複製する。
  - パーティション名を partition2 にする。
  - ユーザー名を customerA に指定し、partition2 のパスワードを自動的に割り 当てる。
  - グループ名を customerAGroup に指定する。
  - 説明を「PartitionForCustomerAGroup」にする。

```
partitionTool -c -s partition1 -n partition2 -u customerA -g
customerAGroup -d "PartitionForCustomerAGroup"
```

## populateDb

populateDb ユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブルにデフォ ルト (シード) ・データを挿入します。

IBM EMM インストーラーは、Marketing Platform システム・テーブルに Marketing Platform および Campaign のデフォルト・データを追加できます。ただし、企業ポ リシーがインストーラーによるデータベースの変更を許可しない場合、またはイン ストーラーが Marketing Platform システム・テーブルに接続できない場合は、この ユーティリティーを使用して、Marketing Platform システム・テーブルにデフォル ト・データを挿入する必要があります。

Campaign の場合、このデータには、デフォルト・パーティションのセキュリティー の役割および権限が含まれます。 Marketing Platform の場合、このデータには、デ フォルトのユーザーとグループ、およびデフォルト・パーティションのセキュリテ ィーの役割および権限が含まれます。

## 構文

populateDb -n productName

## コマンド

-n productName

デフォルト・データを Marketing Platform システム・テーブルに挿入します。有効 な製品名は Manager (Marketing Platform の場合) および Campaign (Campaign の場 合) です。

## 例

Marketing Platform のデフォルト・データを手動で挿入します。

populateDb -n Manager

Campaign のデフォルト・データを手動で挿入します。

populateDb -n Campaign

## restoreAccess

PlatformAdminRole 特権を持つすべてのユーザーが誤ってロックアウトされた場合、 または Marketing Platform にログインするすべての機能が失われた場合には、 restoreAccess ユーティリティーを使用して、Marketing Platform へのアクセスを復 元できます。

## どのような場合に restoreAccess を使用するか

このセクションで説明する 2 つの状況では、restoreAccess を使用することをお勧めします。

#### PlatformAdminRole ユーザーが無効になった場合

Marketing Platform で PlatformAdminRole 特権を持つすべてのユーザーが、システ ム内で無効にされる可能性があります。 platform\_admin ユーザー・アカウントが無 効にされる場合の一例を説明します。例えば、PlatformAdminRole 特権を持つユーザ ー (platform\_admin ユーザー)が1 人しかないとします。「構成」ページで、「 **全 般** | パスワード設定」カテゴリーの「許可されるログイン再試行の最大回数」プロ パティーが3 に設定されているとします。この場合に、誰かが platform\_admin と してログインを試み、不正なパスワードを3 回連続して入力したとします。これら のログイン試行の失敗により、platform\_admin アカウントはシステム内で無効にさ れます。

この場合、restoreAccess を使用することで、Web インターフェースにアクセスせずに、PlatformAdminRole 特権を持つユーザーを Marketing Platform システム・ユ ーザーに追加できます。

このようにして restoreAccess を実行すると、ユーティリティーは、指定されたロ グイン名とパスワード、および PlatformAdminRole 特権を設定したユーザーを作成 します。

指定したユーザー・ログイン名が、Marketing Platform 内に内部ユーザーとして存在 する場合、そのユーザーのパスワードは変更されます。

ログイン名が PlatformAdmin で、PlatformAdminRole 特権を持つユーザーのみが、 例外なくすべてのダッシュボードを管理できます。したがって、platform\_admin ユ ーザーが無効にされて、restoreAccess を使用してユーザーを作成する場合は、 platform\_admin のログインを設定したユーザーを作成する必要があります。

#### Active Directory の統合が不適切に構成されている場合

不適切な構成で Windows Active Directory 統合を実装したことにより、ログインで きなくなった場合には、restoreAccess を使用して、ログイン機能を復元します。

このようにして restoreAccess を実行すると、ユーティリティーは 「Platform | セキュリティー | ログイン方法」プロパティーの値を「Windows 統合ログイン」か ら Marketing Platform に変更します。この変更により、ロックアウトされる前に 存在していた任意のユーザー・アカウントを使用してログインできるようになりま す。オプションで、新規ログイン名およびパスワードを指定することもできます。 このように restoreAccess ユーティリティーを使用する場合は、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

## パスワードに関する考慮事項

restoreAccess を使用するときには、パスワードに関して次のことに注意してください。

- restoreAccess ユーティリティーは、ブランク・パスワードをサポートしません。また、パスワード規則を強要しません。
- 使用中のユーザー名を指定すると、ユーティリティーはそのユーザーのパスワードをリセットします。

## 構文

restoreAccess -u loginName -p password

```
restoreAccess -r
```

### コマンド

#### -r

-u *loginName* オプションを指定せずに使用した場合は、「Platform | セキュリティー | ログイン方法」プロパティーの値を Marketing Platform にリセットします。変更を適用するには、Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-u loginName オプションを指定して使用する場合、PlatformAdminRole ユーザーを 作成します。

## オプション

#### -u loginNname

PlatformAdminRole 特権および指定したログイン名を持つユーザーを作成します。-p オプションと一緒に使用する必要があります。

#### -p password

作成するユーザーのパスワードを指定します。-u に必要です。

### 例

• PlatformAdminRole 特権を持つユーザーを作成します。ログイン名は tempUser で、パスワードは tempPassword です。

restoreAccess -u tempUser -p tempPassword

 ログイン方法の値を IBM Marketing Platform に変更し、PlatformAdminRole 特権 を持つユーザーを作成します。ログイン名は tempUser で、パスワードは tempPassword です。

restoreAccess -r -u tempUser -p tempPassword

## scheduler\_console\_client

IBM EMM スケジューラーに構成されているジョブがトリガーを listen するように セットアップされている場合は、このユーティリティーによって、それらのジョブ をリストし、開始できます。

## SSL が使用可能にされている場合の作業

Marketing Platform Web アプリケーションが SSL を使用するように構成されている 場合、scheduler\_console\_client ユーティリティーが使用する JVM は、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーで使用されている SSL 証明書と同じ証明書を使用する必要があります。

SSL 証明書をインポートするには、以下の手順に従います。

- scheduler\_console\_client によって使用される JRE の場所を特定します。
  - JAVA\_HOME がシステム環境変数として設定されている場合、この環境変数が指す JRE が、scheduler\_console\_client ユーティリティーによって使用されるものです。
  - JAVA\_HOME がシステム環境変数として設定されていない場合、
     scheduler\_console\_client ユーティリティーは、Marketing Platform インスト
     ール済み環境の tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプト、また
     はコマンド・ラインのいずれかで設定された JRE を使用します。
- Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーが使用する SSL 証明書を、scheduler\_console\_client が使用する JRE にインポートします。

Sun JDK には、証明書をインポートするために使用できる、keytool という名前 のプログラムが組み込まれています。このプログラムの使用法について詳しく は、Java の資料を参照するか、プログラムを実行する際に -help を入力してへ ルプにアクセスしてください。

 テキスト・エディターで tools/bin/schedulerconsoleclient ファイルを開き、 以下のプロパティーを追加します。これらのプロパティーは、Marketing Platform がどの Web アプリケーション・サーバーに配置されているかに応じて異なりま す。

- WebSphere の場合は、以下のプロパティーをファイルに追加します。

-Djavax.net.ssl.keyStoreType=JKS

-Djavax.net.ssl.keyStore="鍵ストア JKS ファイルへのパス"

-Djavax.net.ssl.keyStorePassword="鍵ストアのパスワード"

-Djavax.net.ssl.trustStore="トラストストア JKS ファイルへのパス"

-Djavax.net.ssl.trustStorePassword="トラストストアのパスワード"

-DisUseIBMSSLSocketFactory=false

- WebLogic の場合は、以下のプロパティーをファイルに追加します。

-Djavax.net.ssl.keyStoreType="JKS"

-Djavax.net.ssl.trustStore="トラストストア JKS ファイルへのパス"

-Djavax.net.ssl.trustStorePassword="トラストストアのパスワード"

証明書が一致しないと、Marketing Platform ログ・ファイルに以下のようなエラーが 記録されます。

原因: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException: 要求され たターゲットへの有効な証明書パスが見つかりません (Caused by: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException: unable to find valid certification path to requested target)

## 前提条件

Marketing Platform がインストールされ、配置され、実行されている必要があります。

## 構文

scheduler\_console\_client -v -t trigger\_name user\_name

scheduler\_console\_client -s -t trigger\_name user\_name

## コマンド

#### -v

指定されたトリガーを listen するように構成されているスケジューラー・ジョブを リストします。

-t オプションと一緒に使用する必要があります。

- S

指定されたトリガーを送信します。

-t オプションと一緒に使用する必要があります。

## オプション

#### -t trigger\_name

スケジューラーに構成されている、トリガーの名前。

### 例

• trigger1 という名前のトリガーを listen するように構成されているジョブをリストします。

scheduler\_console\_client -v -t trigger1

• trigger1 という名前のトリガーを listen するように構成されているジョブを実行 します。

scheduler\_console\_client -s -t trigger1

# eMessage レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) スクリプト

レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を実行し、その状況を確認するに は、このスクリプトを使用します。

このスクリプトは、eMessage インストール済み環境の bin ディレクトリーにあり ます。eMessage ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内にあるサブディレ クトリーです。

UNIX または Linux 環境では、このスクリプトを rct.sh として実行します。

Windows では、このスクリプトをコマンド・ラインから rct.bat として実行します。

## 構文

rct [ start | stop | check ]

## コマンド

#### start

RCT を始動します。

stop

RCT を停止します。

## オプション

#### check

RCT と IBM EMM Hosted Services との接続状況を確認します。

## 例

• Windows で RCT を始動するには、以下を実行します。

rct.bat start

• Windows で RCT を停止するには、以下を実行します。

### rct.bat stop

• Linux 環境では、RCT が IBM EMM Hosted Services に接続されているかどうか を判別するには、以下を実行します。

### rct.sh check

システムの状況に応じて、このコマンドの出力は以下のような内容になります。

C:¥<*EMM\_HOME*>¥Campaign¥eMessage¥bin>rct check Testing config and connectivity for partition partition1 Succeeded | Partition: partition1 - Hosted Services Account ID: asm admin

# eMessage MKService\_rct スクリプト

MKService\_rct スクリプトは、レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を サービスとして追加または削除します。 RCT をサービスとして追加すると、RCT をインストールしたコンピューターが再始動するたびに、RCT が再始動します。サ ービスとしての RCT を削除すると、RCT は自動的に再始動されなくなります。

このスクリプトは、eMessage インストール済み環境の bin ディレクトリーにあります。

UNIX または Linux 環境では、root 権限またはデーモン・プロセスを作成する権限 を持つユーザーとして MKService rct.sh を実行します。

Windows では、このスクリプトをコマンド・ラインから MKService\_rct.bat とし て実行します。

### 構文

MKService\_rct -install

MKService\_rct -remove

### コマンド

-install

RCT をサービスとして追加します。

#### -remove

RCT サービスを削除します。

## 例

• RCT を Windows サービスとして追加する場合には、以下を実行します。

MKService\_rct.bat -install

• UNIX または Linux で RCT サービスを削除するには、以下を実行します。

MKService\_rct.sh -remove

# 第 11 章 Campaign のアンインストール

Campaign アンインストーラーを実行して、Campaign をアンインストールします。 Campaign アンインストーラーを実行すると、インストール・プロセスの間に作成さ れたファイルが削除されます。例えば、構成ファイル、インストーラーの登録情 報、およびユーザー・データなどのファイルがコンピューターから削除されます。

IBM EMM 製品をインストールすると、アンインストーラーが Uninstall\_Product ディレクトリーに組み込まれます。ここで、Product は IBM 製品の名前です。 Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リスト にも項目が追加されます。

アンインストーラーを実行するのではなくインストール・ディレクトリー内のファ イルを手動で削除すると、同じ場所に IBM 製品を後ほど再インストールする場合 にインストール結果が不完全なものになる可能性があります。製品アンインストー ルの後でも、データベースは削除されません。アンインストーラーは、インストー ル中に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成 または生成されたファイルは、削除されません。

**注:** UNIX の場合、Campaign をインストールしたユーザー・アカウントを使用して、アンインストーラーを実行する必要があります。

Campaign をアンインストールするには、以下のタスクを実行します。

- 1. Campaign Web アプリケーションを配置した場合、WebSphere または WebLogic から Web アプリケーションを配置解除します。
- 2. Campaign リスナーを停止します。
- 3. WebSphere または WebLogic をシャットダウンします
- 4. Campaign に関連するプロセスを停止します。
- 製品インストール・ディレクトリーに ddl ディレクトリーが既存である場合、 その ddl ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・ テーブル・データベースからテーブルを削除します。
- 6. 以下のいずれかのステップを実行して Campaign をアンインストールします。
  - Uninstall\_Product ディレクトリー内にある Campaign アンインストーラーを ダブルクリックします。アンインストーラーは、Campaign をインストールす る際に使用したモードで実行します。
  - コンソール・モードを使用して Campaign をアンインストールする場合は、コ マンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリ ーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

#### Uninstall\_*Product* -i console

 サイレント・モードを使用して Campaign をアンインストールする場合は、コ マンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリ ーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall\_Product -i silent

サイレント・モードを使用して Campaign をアンインストールする場合、アン インストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイアログが表示されま せん。

注: オプションを指定せずに Campaign をアンインストールすると、Campaign アンインストーラーは Campaign のインストール時に使用されたモードで実行されます。

# IBM 技術サポートへの連絡

文書を参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通 じて IBM 技術サポートに電話することができます。 このセクションの情報を使用 するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM 管理者にお問い合わせください。

### 収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデー タ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

### システム情報

IBM 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられること があります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」 ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM のアプリ ケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「**ヘルプ」>「バージョン情報」**を選択することによ り表示できます。 「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM アプ リケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある version.txt ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番 号を入手できます。

## IBM 技術サポートのコンタクト情報

IBM 技術サポートとの連絡を取る方法については、 IBM 製品技術サポートの Web サイト (http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open\_service\_request) を参照して ください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントでログインする必要がありま す。可能な場合、このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があり ます。アカウントを IBM 顧客番号に関連付ける方法については、Support Portal の 「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してく ださい。

# 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合 があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサー ビスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用 可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所 有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを 使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサー ビスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む)を 保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実 施権を許諾することを意味するものではありません。 実施権についてのお問い合わ せは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的 に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随 時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を 行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。 それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプロ グラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の 相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする 方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation 170 Tracer Lane Waltham, MA 02451 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができま すが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、 IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれ と同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定された ものです。 そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値 が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。 さらに、一 部の測定値が、推定値である可能性があります。 実際の結果は、異なる可能性があ ります。 お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要がありま す。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公 に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行 っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の 要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それら の製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回 される場合があり、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行 価格であり、通知なしに変更されるものです。 卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。よ り具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品 などの名前が含まれている場合があります。 これらの名称はすべて架空のものであ り、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎませ ん。

#### 著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を 例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されていま す。 お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラット フォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプ リケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式 においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが
できます。 このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを 経ていません。 従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、 利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。 これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態で提供されるも のであり、いかなる保証も提供されません。 IBM は、お客様の当該サンプル・プ ログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示さ れない場合があります。

## 商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。 他の製品名およびサービス名等は、そ れぞれ IBM または各社の商標である場合があります。 現時点での IBM の商標リ ストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

## プライバシー・ポリシーおよび利用条件の考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」)では、製品の使用に関する情報の収集、エン ド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のた めに、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。 Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピ ューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。 多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご 使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類する テクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体 的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、 お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれ のお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie お よび持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効 にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできま せん。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令 等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie および さまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能 を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイ ドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意 取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関す る方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件 (例えば、プライバシー・ ポリシー) への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者の コンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置するこ とを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、 および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含むさまさまなテクノロジーの使用について詳しく は、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他 のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan